

文部科学省指定事業

令和元年度「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」
(地域魅力化型)

研究開発実施報告書

第1年次



2020年3月

三重県立飯南高等学校

目 次

I	卷頭言	
II	本校の概要	1
III	令和元年度 研究開発の概要	3
IV	令和元年度 研究開発実施状況	6
V	総合学科の柱に位置付けている3科目の再構築	
	1年次「産業社会と人間」の取組	16
	2年次「キャリアデザイン」の取組	32
	3年次「いいなんゼミ」の取組	35
VI	4系列の学び	
1	郷土・環境系列	45
2	介護福祉系列	46
3	総合進学系列	47
4	コンピュータ系列	49
VII	授業改善にかかる研修	50
VIII	ベンチマーキング報告	52
IX	本校主催「第2回答志島サスティナブルキャンプ」	57
X	部活動での地域協働活動	
1	ボランティア部	58
2	美術部	59
3	應援團サークル	60
XI	地域課題解決型キャリア教育モデル構築事業(県事業)	64
XII	各種データ	66

I 卷頭言

研究開発実施報告書の発刊に当たって

三重県立飯南高等学校 校長 土方 清裕

このたび、文部科学省令和元年度「地域との協働による高等学校教育改革推進事業(地域魅力化型)」研究開発実施報告書を発行することになりました。

三重県立飯南高等学校は、昭和23年に三重県松阪北高等学校粥見分校としてその歴史をスタートさせ、平成30年度に創立70周年を迎えた地域の伝統校です。平成11年には、「地域の子どもは地域で育てよう」という理念の基、全国に先駆けて連携型中高一貫教育校となり、同時に普通科から総合学科に改編し、今日まで三重県の教育の最先端を走ってきました。例えば、中高一貫教育では、キャリア教育の接続を重視し、高校の『産業社会と人間』への接続のため、中学校では『人間と社会』を開設したり、中学校で郷土学習に取り組んだりしてきました。

今、学科改編当時と比べても、社会は大きく変化しています。情報通信技術が進歩し、交通や運輸などのインフラが整備され、日本のどこにいてもリアルタイムで世界とつながることができます。地方にいることが必ずしも不利ではない時代だと言えます。一方、今人間がしている多くの仕事がAIや機械に置き換えられるかもしれないと言われています。また、多くの地方で少子高齢化、過疎化が急速に進行しており、多くの自治体が消滅するかもしれないと言われています。そのような中で、これからどのような社会を作ったらみんなが幸せに暮らせるのか、どのような経済の仕組みにすればみんなが豊かに暮らせるのか、実は世界中の誰もこの問いに対する「正解」を持っていません。

このような時代には、答えが一つでない問いに対して、主体的に向き合い、多様な他者と協働して、「正解」ではなく「納得解」を作り出す力が求められます。

飯南高校の所在する飯南・飯高地域は、美しい自然、長い歴史と豊かな文化を持つ素晴らしい地域です。しかし一方、少子高齢化・過疎化が進んだ「世界の課題の最先端」の場所の一つでもあります。ですから、飯南・飯高地域で、地域の課題発見・課題解決型の学習を、高校生が地域の大人や中学生と一緒に取り組むことは、まさに答えが一つでない問いに対して「納得解」を作り上げる経験となります。そして、この経験は、「からの社会で求められる力」を付けることにつながり、都市部の学校では得難い経験であると考えます。

このような考え方から、本校では、平成30年度より「地域を舞台にした探究活動」を推進し「地域課題解決型キャリア教育」を充実させていくこととしました。そして、「地域課題解決型キャリア教育」の充実を一層加速させるため、文部科学省事業「地域との協働による高等学校教育改革推進事業(地域魅力化型)」の採択を受け、令和元年度から、地域一丸となって取り組んでいるところです。

この一年、地元行政、小中学校、住民協議会、NPO法人、産業界、高等教育機関、県教育委員会、市教育委員会等、県内及び地域の多くの皆様と協働してこの事業に取り組んでまいりました。課外活動だけでなく、授業において生徒が地域に出ていく中で、生徒の自己肯定感と明日への意欲の高まりが感じられる場面が多くありました。また、高校生の活動が、多少なりとも地域の活性化に貢献していると思われる場面も出てきました。これもひとえに、地域の皆様をはじめ、多くの方々のご支援の賜物と深く感謝いたしております。本報告書をご覧いただいた方々から忌憚のないご意見、ご助言、ご指導をいただき、次年度以降の取組をさらに充実、発展させてまいりたいと存じます。引き続きご支援を賜りますようお願いして、卷頭のご挨拶とさせていただきます。

II 本校の概要

1 所在地

〒515-1411 三重県松阪市飯南町大字粥見5480の1番地

2 設置課程及び生徒定員【全日制】

科別 \ 学年	1	2	3	計
総合学科	80	80	80	240

3 学校の基本理念

(1) 教育使命

連携型中高一貫教育の改善・充実を図るとともに、基本的な生活習慣を身につけ、一人ひとりの生徒が学力を伸ばしながら、自立できる人間になることを支援します。

(2) 教育目標

- ①人に優しく、思いやりの心を持つ生徒を育てます。
- ②基礎基本の学力の定着を図ります。
- ③生徒一人ひとりの個性を伸ばします。

(3) 教育方針

- ①授業を大切にし、授業の改善・充実に取り組みます。
- ②学校・社会のルールを守る規律指導を行います。
- ③地域の子どもたちの「生きる力」を地域ぐるみで育成し、地域の小・中・高が一貫したキャリア教育を推進します。
- ④生徒・教職員とともに、人権尊重の精神を育成し、人権教育を推進します。
- ⑤生徒・教職員とともに、環境保全の意識を高め、地域社会とともに環境教育を推進します。

4 飯南地域連携型中高一貫教育校 ~特徴のある取組について~

(1) 「郷土学習」の実施

郷土の歴史、文化、自然、産業等を体験や調べ学習を通して理解するため、平成11年度から、各中学校は共通の14項目と独自の内容を理科、社会、音楽、技術・家庭、特別活動等で実施した。13年度からは、「郷土学習」を中学校設定教科「人間と社会」、総合的な学習の時間(あしやまタイム、I-HOPE タイム)、選択科目の中で実施するとともに内容の整理統合を行った。高校では、総合学科の系列の中に、「郷土・環境」系列を設け、中学校で学んだ郷土の基礎的な内容をより発展、深化させるため、専門科目を開設し、計画的・継続的な学習を行っている。

(2) 「人間と社会」と「産業社会と人間」の接続

中学校では、高校総合学科必履修科目である「産業社会と人間」に接続する教科「人間と社会」を特に必要な教科として設定した。また高校では、平成16年度より2年次に「キャリア・デザイン」(学校設定科目)を新設し、3年次の「いいなんゼミ」(総合的な学習の時間)へつなげ、中学校1年次から高校3年次の6年間で、生徒に自己

の生き方・在り方を探究させ、望ましい職業観や勤労観を養い、目的意識や進路選択能力の育成を図っている。

(3) 「総合学科」4系列との連携

本校は、「郷土・環境」、「介護福祉」、「総合進学」、「コンピュータ」の4系列を設置している。中学校では、この4系列に連携する取り組みを「総合的な学習」や「選択教科」の中で実施している。中学校で高校総合学科の内容に接することにより、総合学科に興味を持ち、高校への進学に対して目的意識が明確になっている。

(4) 教職員の交流

中高での交流教員は、平成18年度から教科を数学・英語に限定して、中3高1のつなぎ学習に重点を置いて実施している。令和元年度は、以下の通りに実施した。

高校から：数学1名(飯高中学校へ)、英語1名(飯南中学校へ)

高校へ：数学1名(飯南中学校から)、英語1名(飯高中学校から)

また、中高の生徒指導担当者、人権教育担当者、養護教諭も部会を定期的に開催し、情報交換を行っている。

(5) 生徒の交流

生徒については、平成18年度から交流の機会を増加させ、中学校の各学年で年間2回を原則に実施している。

1年生：生徒交流会(7月)、出前いいなんゼミ発表会(2月)

2年生：生徒交流会(7月)、いいなんゼミ発表会見学(2月)

3年生：体験入学(8月)、連携入試対策講座(12月)

また、高校の生徒会執行部や吹奏楽部が、各中学校の文化祭を訪問している。

(6) 入学者選抜

連携中学校からの志願者に対しては、連携外中学校の生徒を対象とした前期選抜検査と同時期に、学力検査、調査書のいずれも用いず「課題学習のまとめ」と面接にて「中高一貫教育に係る選抜」を実施している。面接では、与えられた内容ではなく、自分が体験したこと、調べたことを発表するため、自信を持って臨んでいる。グラフや写真等、工夫をこらしてプレゼンテーション発表する生徒も多く、バラエティに富んだ内容になっている。平成17年度入学者選抜からは、パソコンによるプレゼンテーションを利用した発表も可能になっている。「課題学習のまとめ」のテーマとしては、職場体験、郷土、福祉、環境問題などが取り上げられている。

(7) 中高一貫教育と大学との連携

中高一貫教育の趣旨を大学との接続にも活かすため、中高一貫教育と大学との連携に取り組んでいる。平成12年度から松阪大学(17年度より三重中京大学、25年度閉学)の協力を得て、大学教官によるリレー方式の高大連携授業を開始し、令和元年度からは、4大学4学部と連携した取組が行われている。

III 令和元年度 研究開発の概要

2019年度 地域との協働による高等学校教育改革推進事業 研究開発の概要

指定期間 2019～2021	ふりがな ①学校名 三重県立飯南高等学校	みえけんりついなんこうとうがっこう ②所在都道府県 三重県
③対象学科名 総合学科	④対象とする生徒数 1年 80 2年 80 3年 74 4年 計 234	⑤学校全体の規模 全日制総合学科 234名 1学年2クラス定員を3クラスに展開
⑥研究開発構想名 ⑦研究開発の概要	「チームいいなん」の挑戦 ～未来を切り拓く“地域に根ざした人材”育成～ 総合学科の柱の3科目(「産業社会と人間」、「キャリアデザイン」、「いいなんゼミ」)を再構築し、3年間の学びの連動を強化して地域課題解決型キャリア教育の充実を図る。また、4系列の特色を活かした地域貢献のための学習活動、各教科・科目での地域題材・データを扱った教科横断的な学習の実施により、日常的な学びと地域・社会との連動を企図する。	
⑧研究開発の内容等 ⑧－1 全体	<p>(1) 目的・目標 本事業では、地域を学び場とした地域課題解決型のキャリア教育の実践を通じて、自ら考え挑戦し、多様な価値観を持つ人々と対話・協働しながら、地域への愛着を持って地域に貢献し、地域の未来を切り拓くことのできる、地域に根ざした人材を育成することを目的とする。その目的とする人材に必要な、4つの資質・能力(対話力・追究力・創造力・発信力)を育成していくことを目標とする。</p> <p>(2) 現状の分析と研究開発の仮説</p> <ul style="list-style-type: none"> 現状の分析 飯南高校の所在する松阪市飯南町と連携型中高一貫教育を実施している中学校が所在する飯高町では、近年急激に人口減少が進行している。さらに今後も減少が拡大することが予想され、このままでは地域住民と学生が交流する機会の減少、文化・産業資源の継承が困難となるなど地域の活力が低下し、地域とともに学校が共倒れになる可能性が高い。 研究開発の仮説 <ul style="list-style-type: none"> 仮説① 地域へ飛び出した学習活動を学校全体で取り組むことで、世代を越えた人々との交流により、対話力が身に付くとともに、地元への貢献の喜びを経験することで一層の地域愛が育まれる。 仮説② 総合学科の柱に位置付けている3科目(「産業社会と人間(1年次:必履修科目)」、「キャリアデザイン(2年次:学校設定科目)」、「いいなんゼミ(3年次:総合的な学習の時間)」)や系列科目において、地域連携活動を推進することで、伝統文化や地域産業を再認識し、課題や改善点を把握・整理しながら追究することや、企画・提案することを通じて、課題解決に向けて創造する力・効果的に発信する力が育まれる。 	

<p style="text-align: center;">⑧ 研究開発の内容等</p>	<p style="text-align: center;">⑧ — 1 全 体</p>	<p>仮説③</p> <p>問い合わせの設定や仮説を立てての学習、学習前後の振り返りの言語化等、授業改善を組織的に行うことで、日常的な生徒主体の学びを向上することができ、正解が一つでない地域活動への学びを高めることができる。</p>
	<p style="text-align: center;">⑧ — 2 具 体 的 内 容</p>	<p>(1) 地域との協働による探究的な学びを実現する学習の実施計画</p> <p>ア 総合学科の柱の3科目における実施計画</p> <p>1年次「産業社会と人間」(総合学科必履修科目)では、地域へ飛び出しフィールドワークを通して飯南町・飯高町の現状や課題等を聴き取り、地域の魅力マップの作成や将来の地域への提案を行う。</p> <p>2年次「キャリアデザイン」(学校設定科目)では、地域の企業人、“本気の大人”との出会いを通じて、過疎化地域での仕事や生活等の課題・魅力について考える。</p> <p>3年次「いいなんゼミ」(総合的な学習の時間)では、1・2年次の活動で生まれた問題意識や課題について、地域課題研究ゼミを設置しながら実践的で創造的な探究活動を行う。</p> <p>イ 系列科目における実施計画</p> <p>地域で栽培している作物や地場産業について、地域の生産者や地元企業等と協働して商品化や付加価値化を企画・提案する。また、地域の福祉課題について行政・福祉施設と連携して実践を踏まえながら課題解決策を模索するなど、地域と連携して新たな価値を創造していく。</p> <p>ウ 探究的な学びを進めるステップ</p> <p>KJ法やワールドカフェ等の基本的なグループワークスキルを授業内に取り入れ、地域に飛び出した際に活用できるよう対話的な授業改善を行い、生徒自身の活用・習得を目指す。そして一斉授業・グループワーク双方のアクティブ・ラーニングを目指し、地域の題材・データを扱いながら、日常的な学びと地域・社会との連動を図る。</p> <p>(2) カリキュラム・マネジメントの推進体制</p> <p>校内に設置する「地域協働カリキュラム推進委員会」を中心として、評価・改善提案を行う。また、「地域人材育成コンソーシアム・いいなん」や「飯南高校活性化協議会」による外部からの評価・改善提案も行い、地域人材が育てられているかどうかの検討を行う。</p> <p>(3) 必要となる教育課程の特例等</p> <p>特になし。</p>
<p>⑨その他特記事項</p>		<p>平成30年度から連携中学校と協働して「道の駅コラボプロジェクト」に取り組み、学びの場を地域へと広げて、地域住民とも対話をしながら、若者で地域を盛り上げて活性化していくとしている(3回実施)。また、地域課題解決に取り組む「答志島サスティナブルキャンプ」を県内外高校生、大学生、大学教授、行政関係者、関係団体、地域住民等約100名規模で、県内高校と共同主催し、過疎化地域の課題をフィールドワークや対話を通して考え、提案・行動するに至っている。</p>

「チームいいなん」の挑戦～未来を切り拓く“地域に根ざした人材”育成～

【育成する地域人材像】

自ら考え挑戦したり、多様な価値観を持つ人々と対話・協働したりしながら、地域への愛着を持つて、地域に貢献し、地域の未来を切り拓くことのできる地域に根ざした人材

地域課題解決型キャリア教育

産業社会と人間

地域魅力マップ作り
「道の駅」で掲示・評価
地域住民・行政担当者との懇談
街頭インタビュー

キャリアデザイン

過疎地域での仕事・生活を考察
～豊かさとは?～
地元の起業家・企業人との懇談
U&Tーン者との懇談

いいなんゼミ

自身の提案に基づく実践
「いいなんゼミ」発表会
地域課題研究
(生徒自身でテーマ設定)
仲間と対話、活動を創造
【校門から校舎へと続く杉並木】

<1年生>

産業社会と人間
各教科
各教科・科目
「グループワーク」
スキルの向上

<2年生>

キャリアデザイン
(学校設定科目)
各系列での学び

<3年生>

～資質・能力～
対話力
探究力
創造力
発信力

地域のフィールドワーク

課外

道の駅コラボプロジェクト

飯南・飯高地域の魅力発信
各系列・部活動で開発・制作した
作品の出品・販売
(緑茶ラテアートなど)

各系列の特色を生かした地域貢献の学び

【郷土・環境系列】松阪赤菜等、地域特産物の栽培→商品化、附加価値化を探究
【介護福祉系系列】地域の福祉課題を調査→行政・福祉施設と改善に向けた懇談、提案
【コンピュータ系列】マーケティング手法を学習→販売計画、販売促進に活用
【総合進学系列】大学との連携→市議会等、地域の現状・課題を学び、改善提案・発表

連携



【緑茶ラテアート】

地域人材育成コンソーシアム・いいなん
地元行政
地元企業
地域住民

NPO
大学

連携中学校



【「飯南」Tシャツ】

IV 令和元年度 研究開発実施状況

1 事業の実施期間

令和元年5月30日(契約締結日)～令和2年3月31日

2 指定校名・類型

学校名 三重県立飯南高等学校
学校長名 土方 清裕
類型 地域魅力化型

3 研究開発名

「チームいいなん」の挑戦～未来を切り拓く“地域に根ざした人材”育成～

4 研究開発概要

本事業では、地域が抱えている諸課題の解決や持続可能な社会の実現に向け、地域を学び場とした地域課題解決型のキャリア教育の実践を通じて、自ら考え挑戦したり、多様な価値観を持つ人々と対話・協働したりしながら、地域への愛着を持って、地域に貢献し、地域の未来を切り拓くことのできる、地域に根ざした人材を育成することを目的とし、必要な資質・能力を育むためのカリキュラム開発に取り組んでいく。

＜地域に根ざした人材に必要な資質・能力＞

- ①地域に飛び出し、地域住民や職業人等、様々な立場の人々、世代を越えた人々の思いや考えを聴き取り共感しながら、コミュニケーションできる力【対話力】
- ②地域の伝統文化や産業、魅力等について調べたり体験したりすることを通じて、課題や改善点を把握・整理する力【追究力】
- ③自らの技術を磨き、他者とかかわり合いながら、仮説を立て、地域課題の解決に向けた取組や活動を創造する力【創造力】
- ④地域課題を解決するための具体的な提案や活動等を効果的に発信する力【発信力】

＜カリキュラム開発の方向性＞

- ①総合学科の柱に位置付けている3科目、「産業社会と人間（1年次必履修科目）」、「キャリアデザイン（2年次学校設定科目）」「いいなんゼミ（3年次総合的な学習の時間）」を再構築し、3年間の学びの連動の強化を図る。
- ②4系列（郷土・環境、介護福祉、コンピュータ、総合進学）の特色を活かした地域貢献のための学習活動の充実を図る。
- ③各教科・科目で地域の題材やデータを扱うなど教科横断的な学習を実施し、日常的な学びと地域・社会との連動を図る。

5 教育課程の特例の活用の有無

無し

6 管理機関の取組・支援実績

(1) コンソーシアムについて

①コンソーシアムの構成団体（地域人材育成コンソーシアム・いいなん）

機 関 名	機 関 の 代 表 者 名
三重県立飯南高等学校	土方 清裕（校長）
松阪市企画振興部	野呂 隆生（地域振興担当理事）
松阪市飯南地域振興局	榎原 典子（局長）
松阪市飯高地域振興局	廣本 知律（局長）
松阪市教育委員会	中田 雅喜（教育長）
松阪市西部教育事務所	中林 穂太（所長）
松阪市立飯南中学校	山下 隆久（校長）
松阪市立飯高中学校	森井 義和（校長）
松阪市粥見住民協議会	中野 孝是（会長代理）
株式会社三ツ知製作所	堀出 一（業務課長）
有限会社深緑茶房	松本 浩（茶長）
叶林業合名会社	堀内 楓子
有限会社上野屋	佐々木 幸太郎（代表取締役）
NPO法人i sierra（アイシェラ）	太田 覚（理事長）
三重大学地域イノベーション学研究科	西村 訓弘（副学長・教授）
三重県教育委員会事務局教育政策課	上村 和弘（課長）
三重県教育委員会事務局教育政策課	西 達夫（主幹）

②活動日程・活動内容

活動日程	活動内容
令和元年6月5日	第1回会合 ・研究開発実施計画を共有するとともに、学校や生徒のニーズに応じた支援内容・支援体制について協議
令和元年7月22日	飯南高校と共に未来を拓く地域活性化セミナーの開催 (講師：大正大学教授・浦崎太郎氏、参加者99名)
令和元年10月23、24日	「産業社会と人間」における第2回フィールドワークでの活動先の紹介、受入れ
令和元年11月28日	第2回会合 ・取組の進捗状況を共有するとともに、生徒の主体的な活動に向けた地域・地元行政としての支援のあり方について協議
令和元年12月17日	第2回フィールドワーク発表会（1年生）の参観 *都合のつけられた委員のみ
令和2年1月22～23日	島根県立津和野高等学校を視察 ・地域や行政との連携及び地域との協働による特色ある取組、町営英語塾について
令和2年2月5日	いいなんゼミ発表会（3年生）の参観 *都合のつけられた委員のみ
令和2年2月25日	課題解決学習発表会（1年生）の参観 *都合のつけられた委員のみ

(2) カリキュラム開発等専門家について

①指定した人材・高等学校における位置付け

一般社団法人まなびと代表理事 江森真矢子氏 月1回程度来校

まちげいKNOT代表、豊岡短期大学非常勤講師 浅野吉英氏 月2回程度来校

②活動日程・活動内容

活動日程	活動内容
平成31年4月16日 (江森、浅野)	本校へ初出勤 *管理機関にて予算措置 ・令和元年度事業における活動計画について協議 ・「産業社会と人間」の活動内容について協議
平成31年4月19 (江森、浅野)	第1回フィールドワークの内容について協議 *管理機関にて予算措置
令和元年5月14日 (江森、浅野)	第1回フィールドワーク *管理機関にて予算措置 ・「福信院」、「大谷嘉兵衛資料館」へ同行 ・フィールドワーク後の振り返り等について内容協議
令和元年5月28日 (江森、浅野)	フィールドワークの「魅力マップ」の作成に関わる生徒への指導 *管理機関にて予算措置
令和元年6月3日 (江森、浅野)	第1回地域協働カリキュラム推進委員会に出席 ・本事業の方向性や年間計画、今後の「産業社会と人間」のカリキュラム作りについて協議
令和元年7月11日 (浅野)	第2回フィールドワーク、答志島サスティナブルキャンプ、ふるさと看板プロジェクトの内容について協議
令和元年7月12日 (浅野)	第2回地域協働カリキュラム推進委員会に出席 ・次年度の「産業社会と人間」、「キャリアデザイン」の骨子および第2回フィールドワークについて協議
令和元年8月26、27日 (浅野)	答志島サスティナブルキャンプに、メインファシリテーターとして参加
令和元年10月16日 (浅野)	第3回地域協働カリキュラム推進委員会に出席 ・夏季休業期間までの活動報告および第2回フィールドワークの内容について協議
令和元年10月17日 (浅野)	第2回フィールドワークの事前協議 「ボランティア基礎」におけるふるさと看板プロジェクトで三ツ知製作所へ同行
令和元年10月23、24日 (浅野)	第2回フィールドワークにおいて「道の駅飯高駅」へ同行
令和元年11月14日 (浅野)	「ボランティア基礎」におけるふるさと看板プロジェクトで三ツ知製作所へ同行
令和元年12月19日 (浅野)	「ボランティア基礎」におけるふるさと看板プロジェクトで三ツ知製作所へ同行
令和元年12月26日 (江森)	本校との連携について飯高地域振興局長、地域おこし協力隊と協議
令和元年12月27日 (江森)	松阪市役所において、高校教育と行政の関わり方、地域おこし協力隊の位置づけ等について、協議・助言
令和2年1月16日 (浅野)	「ボランティア基礎」におけるふるさと看板プロジェクトで三ツ知製作所へ同行
令和2年1月21日 (浅野)	第4回地域協働カリキュラム推進委員会に出席 ・3学期の課題解決学習、次年度の計画について協議
令和2年2月5日 (浅野)	いいなんゼミ発表会に出席 ・指導、助言

活動日程	活動内容
令和2年2月26日 (江森、浅野)	「ボランティア基礎」におけるふるさと看板プロジェクトの今後の進め方について、指導・助言 第5回地域協働カリキュラム推進委員会に出席 ・今年度の振り返り、次年度の計画等の協議・助言
令和2年2月27日 (江森)	第13回作業部会に出席 ・ベンチマーキングの意見共有 ・学校ホームページの内容について協議

(3) 地域協働学習実施支援員について

①指定した人材・高等学校における位置付け

松阪市地域おこし協力隊 横山陽子氏 週1回程度打合せ

- ・地域おこし協力隊として松阪市が初めて雇用。本校へは第2回フィールドワークから関わっていただいているが、令和2年4月以降は、原則週1日本校で勤務する予定である。

②活動日程・活動内容

日 程	内 容
令和元年10月 9日	管理職と打合せ、学校の概要説明等
令和元年10月16日	第3回地域協働カリキュラム推進委員会に出席 ・夏季休業期間までの活動報告および第2回フィールドワークの内容について協議
令和元年10月23日	第2回フィールドワークにおいて「有間野地域」へ同行
令和元年10月24日	地域との協働による高等学校教育改革推進事業全国サミットに出席
令和元年10月26日	飯南町「深野棚田まつり」で中高生の店への運営協力
令和元年10月27日	道の駅飯高駅での中高生の店「道の駅コラボプロジェクト」への協力
令和元年11月17日	「飯南ふれあいまつり」でのボランティア部、グリーン部、應援團の活動への協力
令和元年12月17日	第2回フィールドワーク発表会に出席
令和2年 1月21日	美術部「緑茶ラテアート活動」への協力
令和2年 2月 5日	いいなんゼミ発表会に出席

(4) 運営指導委員会について

①運営指導委員会の構成員

氏 名	所 属・職	備 考
長田 徹	文部科学省初等中等教育局教育課程教科調査官 国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センター統括研究官	学校教育に専門的知識を有する者
西村 訓弘	三重大学副学長（社会連携担当） 三重大学地域イノベーション学研究科教授	学識経験者
浦崎 太郎	大正大学地域創生学部教授	学識経験者
吉仲 繁樹	三重県商工会連合会専務理事	産業界
橋本 純	三重県漁業士 三重県海水養魚協議会長	産業界
西出 覚	三重県大台町企画課係長	行政機関
岸川 政之	（一財）未来の大人応援プロジェクト 代表	コーディネーター
土方 清裕	三重県立飯南高等学校長	校長代表
安田 恵理	三重県立鳥羽高等学校教諭	教員代表

②活動日程・活動内容

活動日程	活動内容
令和元年5月24日	第1回会合 ・高校生が地域課題に取り組むことの意義、地域課題解決型キャリア教育を推進するうえで大切なことについて協議
令和元年11月18日	第2回会合 ・半年間の取組を共有し、取組の改善・充実に向けて必要な事柄および目指すべき姿について協議
令和2年3月18日(中止)	第3回会合 ・1年間の取組を共有し、成果や課題、次年度に向けた方向性について協議

(5) 管理機関における取組について

①管理機関（コンソーシアム含む）における主体的な取組

- ・4～5月（国との契約前）における取組を推進するため、予算の上乗せを行った。
- ・地域課題解決型キャリア教育の取組を推進している高校の生徒・教員が一堂に集い、情報共有や意見交換を行う「地域みらいPBL会議」を開催した。鈴木寛氏（東京大学教授、慶應義塾大学教授、前文部科学大臣補佐官）による基調講演のほか、同氏と生徒によるパネルディスカッションを行い、PBLへの理解を深めた。
- ・地域課題解決型キャリア教育の取組を推進している高校の生徒を対象に、一般社団法人未来の大人応援プロジェクト「全国高校生SBP交流フェア実行委員会」主催のSBP交流フェアに参加する企画を実施した。SBP活動に取り組んでいる全国の高校生との交流を深めることで、主体的に地域課題に取り組む意欲を高める機会とした。
- ・県内外の高校生を対象に「2019高校生地域創造サミット」を開催し、地域のことを主体的に考え行動する意欲や、地域とともに課題解決に取り組む姿勢を育む機会とした。
- ・三重県総合教育会議の議題の1つに地域課題解決型キャリア教育を取り上げていただき、飯南高校を含む3校の生徒が、知事や教育委員に向け、学習状況や成果の報告を行った。
- ・コンソーシアムにおいては、フィールドワークの実施に係る、地域の大人の紹介、生徒輸送バスの運行、フィールドワーク先としての受入れ等を行った。また、介護福祉系列内の授業で進めている「ふるさと看板プロジェクト」への協働や、美術部の緑茶ラテアートの販売・活動先の提供等、生徒の活動の幅を広げための支援活動を行った。

②事業終了後の自走を見据えた取組

官学が協働し、地域を学びの場とした活動を推進していく。具体的には、令和3年度からコンソーシアムを母体とした飯南高校学校運営協議会を設置し、飯南・飯高地域の松阪市立小中学校とで「小中高連携型コミュニティ・スクール」としていく予定である。また、松阪市の次期総合計画に飯南高校の魅力化について記述いただく方向で調整中である。

③高等学校と地域の協働による取組に関する協定文書等の締結状況

令和元年6月に、地域の活性化と高校の魅力化、高校大学双方の人材育成を目的として、松阪市、学校法人享栄学園鈴鹿大学・鈴鹿大学短期大学部、株式会社鈴りん探偵舎と本校の4者で「飯南いいな～協定」を締結した。協定を用い、松阪市CIRや鈴鹿大学の留学生と国際交流を行い、外国の他地域と比較する活動を行った。また、道の駅コラボプロジェクトが一層生徒主体の活動となるよう、鈴りん探偵舎とイベント計画を進め、2月16日に【VICS】×道の駅コラボプロジェクトを本校・連携2中学校が協働で運営した。

7 研究開発の実績

(1) 実施日程

実績項目	実施日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
「産業社会と人間」における地域探究学習	1回	3回					4回	2回	2回	3回	3回	
「キャリアデザイン」における地元や地域を知る活動および 「いいなんゼミ」					3回	2回			2回	3回	2回	
「いいなんゼミ」における地域課題解決にむけた探究活動	4～12月の毎週火曜日1時限分、金曜日2時限分で、それぞれのゼミに分かれて探究活動を行った。7月に中間報告、12月に最終報告を行った。最終報告で内容が評価されて学年代表となった生徒は、2月の「いいなんゼミ発表会」に向け、活動内容を精査していく予定である。											
学校設定科目「社会科学入門」での地域課題学習		3回	4回		2回	3回	3回	4回	2回	3回	3回	
授業改善のための教員研修					1回				1回		1回	

(2) 実績の説明

①研究開発の内容や地域課題研究の内容

本研究では、①総合学科の柱に位置付けている3科目の再構築、②4系列の特色を活かした地域貢献のための学習活動の充実、③探究的な学びを進める授業改善、の3つを柱として取り組んでいるところである。

①における「産業社会と人間」は、1年次総合学科必履修科目かつ3年間の学びの核となる科目であるため、令和元年度は重点的に内容改善を行った。1学期は「地域を知る」、2学期は「地域への理解を掘り下げる」、3学期は「地域課題の解決へ向けた提案づくりや魅力を伝える」といった地域を学びの場とした活動(1・2学期はフィールドワークも実施)を含む内容へとリニューアルした。また、魅力マップづくり、活動報告発表会、成果報告会(予定)を行うなど、活動内容や考えを生徒間・外部の方と共有する取組も位置付けた。

「キャリアデザイン」(2年次学校設定科目)においては、企業見学やインターンシップのほか、商工会議所と連携して「高校生と地元企業との交流会」を開催し、生徒が地元企業の仕事内容ややりがい等について知る機会とした。「いいなんゼミ」(3年次総合的な学習の時間)においては、地域を題材として課題研究に取り組む生徒を1つのゼミ内で協働させながら、各個人の課題や内容に応じた探究活動を展開した。代表的な取組として、過疎化の進行に伴う空き家の増加に注目し、「空き家片付けプロジェクト」を立ち上げて空き家バンクの登録数の増加を目指した取組や、フォトコンテストを開

催して地域の魅力を発信する企画を実行した取組があげられる。

②については、令和2年度以降の各系列における地域と協働した学習が、令和元年度の「産業社会と人間」で地域を題材に学んだ生徒にとって連続性のあるものとなるよう、学習内容・活動を模索する年度に位置づけた。介護福祉系列では地元企業との「ふるさと看板プロジェクト」、コンピュータ系列では学校のブランディングの一環として「地域の産業や文化を取り入れたキャラクターブルーバード」、総合進学系列では高大連携授業において「地域課題をデータに基づき考える学び」など、地域を軸にした学びを実施することができた。

③については、ユマニテク短期大学学長・鈴木建生氏を2回招へいし、研修を実施した。1回目(7月)は対話的な授業改善やめあての提示、振り返りの言語化等について、2回目(12月)は模範授業を通じて対話的な学びについて学ぶ機会とした。また、2月には「いいなんゼミ」における探究活動やフィールドワークでの学びをより豊かなものにするため、産業能率大学准教授・皆川雅樹氏による「問い合わせワークショップ」を生徒向けと教員向けの2回開催した。

②地域との協働による探究的な学びを実現する学習内容の教育課程内における位置付け

「産業社会と人間」、「キャリアデザイン」、「いいなんゼミ」は、総合学科の柱に位置付けている3科目であり、この連動を強化することで3年間を通じた地域課題解決型のキャリア教育の充実を想定している。そのため、特に令和元年度は「産業社会と人間」をリニューアルし、学年全体をとおして地域を学びの場とするためにフィールドワークを実施した。また、「産業社会と人間」と、2年次以降における各系列の特色を生かした学びが、連続性のあるものとなるよう構想することで、地域貢献のための学習活動の充実につなげる。

③地域との協働による探究的な学びを取り入れた各科目等における学習を相互に関連させ、教科等横断的な学習とする取組

令和元年度は、総合進学系列の学校設定科目「社会科学入門」において、松阪市の行政や地域医療、仮想通貨を取り上げたが、現代社会や政治・経済、保健などと連動した学びとなった。また、プレゼンテーションソフトを活用した発表は、情報での学びを深化・発展させるものとなった。

④類型毎の趣旨に応じた取組

「産業社会と人間」において2回のフィールドワークを実施し、地域に学びの場を移した。これにより、必然的に地域の大人との交流機会が増加したことに加え、実際に地域の方々と対話しながら実状を探ることでリアルな課題や魅力の発見につながった。また、対話にはコミュニケーションスキルの獲得が必要であることを生徒自身が実感できた。そして、それらの活動を通じて「地域課題の自分ごと化」が少しづつ醸成されてきている。

教員としても、地域からの温かい支援をいただき、地域と協働することで、生徒に必要な力を一層身に付けさせることができるのでないかという実感を得ることができた。

⑤成果の普及方法・実績

「産業社会と人間」で行った第1回フィールドワークのまとめは、校内および学校開放デーにおいて展示を行った。これに対するアンケートでは400件以上のコメントが

寄せられ、地域での活動が校内外に大きな反響を与えることができると生徒・教員ともに実感することができた。そして、第2回フィールドワーク発表会ではフィールドワーク当日に関わっていただいた地域の方々10名ほどの参加を得て、活動内容の還流報告を行った。また、「いいなんゼミ発表会」を2月5日に開催し、コンソーシアムの関係者や地域住民、県内高校教員ら約50名が来場し、連携中学校生徒および本校生徒を含めると総勢約360名が来場した。

また、ここに挙げた活動およびそれ以外の生徒活動(部活動・サークル活動含む)については、数社の新聞報道や地域のかわら版、広報、行政チャンネル「アイウェーブまつさか」など、各メディアでのべ60回程度取り上げられた。

(3) 研究開発の実施体制について

①地域との協働による探究的な学びを実現するためのカリキュラム・マネジメントの推進体制

校内に「地域協働カリキュラム推進委員会」を設置し、5度の委員会を開催して令和元年度の授業計画・推進、評価、改善提案を行った。当初、月2回程度の開催を予定していたが、新たな取組である「産業社会と人間」におけるフィールドワークの内容素案を作成するため、地域協働カリキュラム推進委員会に所属する4名を中心とした「作業部会」を新たに設置し、月2回程度の継続的な協議を行った。また、作業部会を中心に、フィールドワーク先の地域の方々との連絡調整を密にし、関係性の構築に努めた。

②学校全体の研究開発体制（教師の役割、それを支援する体制）

初の取組であったフィールドワークについては、該当学年団以外の教員も引率や事前・事後指導を行い、学校全体で取り組む活動へと意識づけた。企業との連携については進路指導部を中心として対応し、「いいなんゼミ」等における地域との連携は各担当者で分担した。また、授業改善に関する研修会については、本事業研究担当者が受け持ち、管理職と共同して人選・連絡を行った。

③学校長の下で、研究開発の進捗管理を行い、定期的な確認や成果の検証・評価等を通じ、計画・方法を改善していく仕組み

学期ごとにアンケートを実施し、その数値や活動の際の生徒および教員の振り返りをふまえて、地域協働カリキュラム推進委員会や作業部会において改善の検討を行っている。

④カリキュラム開発に対するコンソーシアムにおける取組

「産業社会と人間」でのフィールドワークの実施に係る、地域の施設提供や地域の大人的紹介、生徒輸送バスの運行、フィールドワーク先としての受入れ等を行った。また、「ふるさと看板プロジェクト」への協働、「いいなんゼミ発表会」における連携中学校生徒の参観に係る調整、生徒活動の場の提供等、生徒の活動の幅を広げための支援活動を行った。

8 目標の進捗状況、成果、評価

飯南高校は連携型中高一貫教育を実施しているが、令和元年度1年次生の80%は飯南・飯高地域外から通学している。「産業社会と人間」において、5月に実施した第1回フィールドワーク後には「ここには福信院があって住職さんがとても優しい」など、地域を話題にする姿が校内で見られるようになり、「地域を知る」という点で効果的であった。また、活動のまとめで作成した「魅力マップ」を生徒同士で共有するだけでな

く、学校開放デーで掲示すると、地域の方々から「地域の事をよく見て回って勉強された事がしっかり書かれてあってすばらしい」など、取組を評価するアンケートコメントを400件以上いただいた。加えて、生徒が地域の寺院を訪ねるなど、地域への関心が高まり、地域を学びの場とするよい土壤づくりとなった。

10月に実施した第2回フィールドワークでは、飯南・飯高両地域振興局等、コンソーシアムの行政機関の支援を得ることで、事前学習や最適な地域の大人との顔つなぎ、バスの運行など、円滑に進めることができた。同じくコンソーシアムの三ツ知製作所や深緑茶房、上野屋等の企業への訪問・体験活動も行い、地元企業を知り、地域への理解を掘り下げることもできた。

一連のフィールドワークについて、地域人材育成コンソーシアムの第2回会合では、「生徒にとって、質問することは難しいと感じたが、学びたい姿勢をすごく感じた」という意見のほか、「企業側も生徒と関わって初めて学べることが多い」等の意見も出され、企業側としても良い学びになったようだ。この活動をとおして、生徒・教員とともに、地域に出ていくことへの不安が解消され、地域を学びの場とすることの意義を実感することができた。

本事業の成果目標として、「対話力・追究力・創造力・発信力の4つの能力がすべて身に付いたと考える生徒の割合」を85%に設定した。7月および12月にアンケートを実施した結果、7月29.3%→12月37.3%であった。3年間での目標値には遠く及ばない数値となったが、各項目で見ると、対話力58.2%→73.7%、追究力59.5%→61.3%、創造力65.8%→64.5%、発信力41.3%→60.0%と創造力を除き当初より上昇しており、上述したような地域を学びの場とした活動を進めたことで、力が身に付いたと生徒自身が実感したことは大きな成果である。また、「産業社会と人間」で地域を学びの場にした活動に取り組んだ生徒たちが、2年次・3年次に各教科・系列の授業で地域のことを学ぶと、「これまでの生徒とは違った感触が得られるのではないか」、「地域のことを学ぶ意味を感覚として理解できるのではないか」という見方が教員間で広がってきている。3年間の学びを展開するための基盤が構築されてきたのではないかと考える。

4系列の学習活動については、令和元年度は地域との協働による学びの授業形態を模索する段階であったが、総合進学系列の「社会科学入門」や「国際社会と日本」では地域を軸にした学びの活動を取り入れた。大学教員や留学生との対話、松阪市の資料・データを活用した学習および地元特産品を紹介する活動等は、単に社会的知識だけでなく数学的読解力や外国語力、コミュニケーションスキルも必要とされ、結果的に教科横断的な要素を含んだ学習となり、生徒の学びは以前より豊かなものになった。また、コンピュータ系列「マーケティング」では本校をブランディングするために、地域の特産品や文化・伝統等を取り入れたイメージキャラクターの制作を行った。地域のことを学びながら創造力や発信力を高めることにつながった。

授業改善については、ユマニテク短期大学学長鈴木建生氏に2度来校いただいたこともあり、授業での対話的な活動が行われ始めている。学習の振り返りに取り組み始めた教科・系列もある。3年次「いいなんゼミ」にも関係する問い合わせづくりについては、産業能率大学准教授皆川雅樹氏の研修会で対話を通して疑似体験し、生徒向け問い合わせワークショップにおいて生徒の活動の様子を見たことを踏まえて、今後の指導に役立てる予定である。

一方、成果目標で掲げた「松阪市及びその周辺地域出身の就職希望者のうち、松阪市内及びその周辺地域の事業所等に就職した割合」と「松阪市及びその周辺地域出身の就職希望者のうち、飯南・飯高地域の事業所等に就職した生徒の人数」については、それぞれ75.8%、7名であり、2017年度(79.2%、7名)、2018年度(72.3%、4名)と比べて平年並みであった。令和元年度2年次生については、8月に地域へのセルフインターンシップ、12月には初めて「高校生と地元企業との交流会」を実施し、地元企業との対話の場を設けた。特に後者では自由記述にもかかわらず8割の生徒が積極的に感想を記入するなど、予想以上の反応が生徒にあったため、就職先の選択への好影響があるのではないかと感じている。

9 次年度以降の課題及び改善点

1年次に「産業社会と人間」において地域を知る、地域への理解を掘り下げることをおして飯南飯高地域を学びの場とした活動を行ったが、「将来的に松阪市に住みたいと考える生徒の割合」や「将来的に飯南・飯高地域に住みたいと考える生徒の人数」という指標は、7月から12月にかけて前者は55.1%→47.2%、後者は15人→10人と減少した。これは、2年次生の65.8%、3年次生の77.8%に比べてかなり低い数値となった。活動当初から地域の「課題を見つける」や「解決へ向けた提案をする」に重点を置きすぎた結果、どうしても生徒が地域にマイナスイメージを持ったり難しいと感じてしまったりする部分が多く見られた。この点は、地域の良さや魅力を見つけたり発信したりとプラスイメージが持てる取組を念頭に置きながら、より良くしようと考えることが結果的に地域の課題解決につながり、教科を越えた深い学びになっていくという方向性を持ちながら次年度は進めていきたい。

2年次「キャリアデザイン」については、授業日程と先方の予定との調整がうまくとれず、今年度は企画できなかった。この反省を踏まえてすでに来年度の年間計画を組んでおり、地域で本気で活動している大人の刺激を与えていく予定である。また、令和2年度は1年次「産業社会と人間」で取り組んだ地域を学びの場とした活動を基盤に、地域の仕事や生活に焦点を当てた学習を構築していきたい。そのため、フィールドワークで協力いただいた企業とのつながりをもとに、地元企業を中心としたインターンシップを8月中に行う予定である。またこの活動を通じて、飯南・飯高地域での就職先を考える際の一助になればと考えている。

さらに3年次「いいなんゼミ」の探究活動においては地域をテーマにした課題研究に取り組む生徒の増加を図り、より一層地域と協働しながら生徒の育成を進めていきたい。

4系列の学習活動については、令和元年度は模索の段階ではあったが、地域を素材とした学びを展開することができた。しかし、本事業計画時からの人事異動により、当初予定していた活動が進まなかつた部分もあった。教員を入れ替わっても計画している学習活動が展開できるよう、学校組織としてカリキュラム・デザインを構築していく必要がある。

また、授業改善については、講師を招へいした研修会の実施を通じ、教員の意識・意欲の向上は見られたものの、確実なグループワークスキルの修得には至っていない。令和2年度は校内授業研修会の開催やグループワークでのルールの整備が必要である。

V 総合学科の柱に位置付けている3科目の再構築

1 1年次「産業社会と人間」の取組

(1) 目的

キャリアサポート学習を体系的に展開し、職業観・労働觀を育成するために以下の5点を学年目標とし、すすめていった。

- ①2回のフィールドワークを通して自ら課題を設定し、解決する力を身につける。
- ②4系列の体験学習を通して、自己の進路について考える。
- ③大学見学や企業説明会など各インターンシップの充実を図る。
- ④発表会を実施し、プレゼンテーション能力の向上を図り、発信力を養う。
- ⑤飯南高校の掲げる4つの力(対話力、追究力、創造力、発信力)を身につける。

(2) 年間計画

月	取り組み	備 考
4月	「産業社会と人間」ガイダンス 第1回フィールドワーク事前学習 1. フィールドワークガイダンス 2. 飯南・飯高の成り立ち 3. 取材の仕方、写真の撮り方	1. フィールドワークの全体説明 2. 元飯南振興局職員による説明 3. 夕刊みえ記者による講演
5月	第1回フィールドワーク事前学習	
6月	第1回フィールドワーク事後活動 キャンパスインターンシップ	フィールドワークの活動整理 魅力マップの作成 大学、専門学校見学会
7月	進路フェスタ	合同学校説明会
9月	4系列の学び	4つの系列の体験
10月	第2回フィールドワーク事前学習 1. フィールドワークガイダンス 2. 事前の調べ学習 第2回フィールドワーク(2日間)	1. フィールドワーク全体説明 2. フィールドワーク先の調べ学習
11月	フィールドワーク事後活動 模擬授業体験(外部)	フィールドワーク活動報告書の作成 発表用パワーポイントの作成
12月	第2回フィールドワーク発表会 人権学習	
1月	課題解決学習	
12月	課題解決学習 課題解決学習発表会 課題解決学習の振り返り	

(3) 第1回フィールドワーク【1学期】

① 4月23日 産業社会と人間ガイダンス

第1回フィールドワークの説明を行った。フィールドワークの目的を飯南・飯高地域を知ることとコミュニケーションを図りながら団体行動ができるとした。

② 5月7、8日 飯南・飯高地域の成り立ち

飯南・飯高の歴史的背景や深野だんだん田や深野和紙などの文化資源について理解を深めた。また、夕刊みえの記者から疑問の持ち方、写真の撮り方を学んだ。

③ 5月14日 第1回フィールドワーク実施

飯南・飯高地域のことを知るために班に分かれて、地域の魅力探しを行った。

飯南・飯高がどのようなところであるのか自分なりに予想を立ててフィールドワークに行き自分の予想と比較した。

ア 波留グループ

エドヒガンザクラが生育する春谷寺、山ノ神を調査した。エドヒガンザクラの開花時期は過ぎていたが樹齢300年のエドヒガンザクラを見て悠久の時を感じている様であった。発見した神社は、人の手が全く入っておらず、雑草が繁茂している場所であり、この地域で進む過疎化について考える機会となった。

イ 飯南高校周辺グループ

今まで知らなかった寺や神社を発見しつつ櫛田川からのきれいな景色を眺めた。櫛田川の水中にカメラを入れ撮影し、日本一もなったことがある櫛田川の水質の良さを実感した。粥見橋周辺ではソーラーパネルが多く設置されていることに気づくことができた。そこから、飯南地域ではソーラーパネルが増加傾向にあるのではないかという考えを持つことができた。

ウ 深野グループ

和紙和牛センターにて深野和紙の文化や松阪牛について学び、この地域の伝統・文化を知ることができ、地域の人と触れあう機会を得ることもできた。深野の坂を登ることでしか見られない美しい茶畑の光景を見ることもできた。また、松阪牛発祥の地である深野において、牛農家で飼育されている松阪牛を見ることもできた。そこで地域の方から松阪牛の話を聞くことができた。

エ 道の駅茶倉駅グループ

茶倉駅周辺の魅力について掘り下げた。生徒達は茶倉駅からみえる飯南の緑豊かな絶景に圧倒されていた。また、歩かないと分らないような場所に建てられている「茶業伝承館」を発見し、見学するとともに歩くことで新しい発見できることがあるという喜びを感じていた。

オ 粟野グループ

日本のお茶の振興に尽力した大谷嘉兵衛について調べた。大谷嘉兵衛資料館を見学し、大谷嘉兵衛の功績についての話を聴いた。そこで大谷嘉兵衛の功績と日本のお茶との関係について理解を深めることができた。

カ 赤桶グループ

水屋神社でクスノキの巨木を観察し、地元の名所である珍布峠を登った。登るだけではなく、珍布峠の環境を観察しつつ飯高の自然に触れることができた。また、道の駅飯高駅で名産品にどのようなものがあるか調べることができた。

キ 波瀬グループ

櫛田川の上流を歩き、櫛田川の水質の良さを実感することができた。波瀬植物園おたふく茶屋では、四季折々の植物を観察し名産品である手打ちそば、でんがらを味わうことができた。

ク 森グループ

蓮ダムを目指して歩き、蓮ダムの大きさや成り立ちを学習することができた。

また、地域の方と話す機会もあり、地域の方と接する良い機会となつた。

ケ 七日市グループ

乳峯神社という河俣の里の農産物の直売所を発見した。木々がとてもきれいであり、空気がおいしいといった感想が生徒からあがつた。何よりも夫婦スギなど樹木の美しさを実感していたようであった。

④第1回フィールドワークの記録



(ア)春谷寺のエドヒガンザクラ



(イ)櫛田川(水中)



(ウ)松阪牛



(エ)道の駅茶倉駅の展望台



(オ)大谷嘉兵衛資料館



(カ)珍布峠



(キ)波瀬



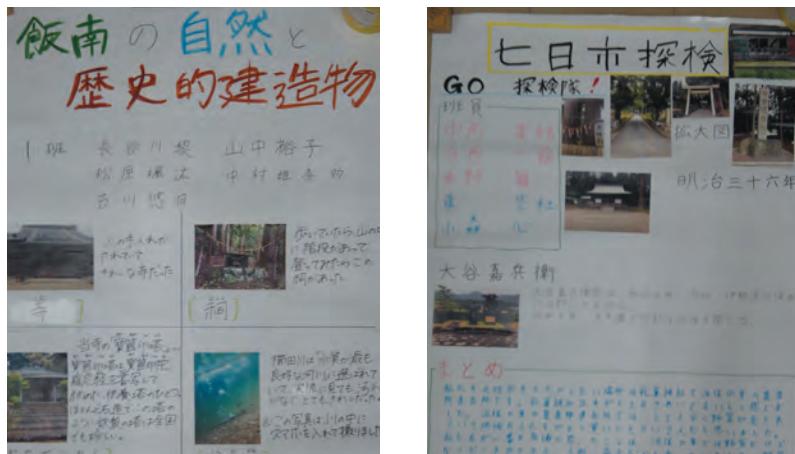
(ク)蓮ダム



(ケ)河俣の里

⑤5月28日 第1回フィールドワーク事後活動

フィールドワークで発見したもの、興味をひいたものを班で協力して模造紙にまとめ、魅力マップを作成した。生徒達は魅力マップ作成を行う過程で、改めて飯南・飯高地域の魅力を再認識するとともに、フィールドワークに行く前に立てた自分の予想と結果を比較した。多くの生徒がフィールドワークで新しい発見をしたり、神社や寺の成り立ちに疑問を持ったり、地形に対して疑問を持つことができた。



(4) 第2回フィールドワーク【2学期】

①9月3日 第2回フィールドワークガイダンス

今回は地域の魅力を深めること、飯南・飯高地域が抱える課題を解決する提案ができる目的とした。「飯南・飯高地域の魅力や名産品をさらに深める」、「地元の課題、困りごとを探し、解決策を考える」、「地元企業への訪問と体験」の3つテーマを設定し、ここから最も関心のあるもの1つ選んで班に分かれた。

②10月15日 第2回フィールドワーク事前学習

各班がフィールドワークで訪れる場所や施設が抱える課題を設定し、その課題に対して班で話し合い仮説を立てた。そして、調査方法を考え、インタビュー内容をあらかじめ考えさせることで円滑に調査活動ができるようにした。

③10月23、24日 第2回フィールドワーク実施

午前中にフィールドワークに行き、午後は学校に戻りその日の振り返りを行った。

ア 飯南・飯高地域の魅力や名産品をさらに深める

a 大谷嘉兵衛に関することを調べる

飯高町出身の大谷嘉兵衛について深く掘り下げる目的とした。1日目に大谷嘉兵衛資料館を訪問し、大谷嘉兵衛がどのような人物であったのか、またその功績を教えていただいた。大谷嘉兵衛のことを初めて知る生徒が多く、興味深く話を聴いていた。自分たちが通う飯南高校の近くに、これほど功績のある人物がいたという新たな発見にもつながった。2日目は大谷嘉兵衛ゆかりの建造物を見て回った。主には大谷橋、長楽寺、大谷嘉兵衛の胸像、大谷嘉兵衛翁墓、大谷嘉兵衛翁屋敷跡である。2日間を通して生徒達が感じことは、大谷嘉兵衛知名度が低いことである。地元の誇りである大谷嘉兵衛を地元出身の自分たちが知ることは大切であるということを感じていた。

b 水を探る

飯南・飯高で採取される水に違いはあるのか調査することにした。1日目は飯高洞窟美術館に向かい、地域の方と対話する機会を得られた。そこで、命の水がどのような水なのか、地域の方が命の水にどのような思いを持っているのか知れた。その後、命の水を提供してもらい成分分析を行った。2日目は石清水と延命水を採取した。石清水は県外から水をくみに来る人も見られ、生徒達は地元で採集できる石清水がこれほど有名であることに驚いていた。命の水、石清水、櫛田川、水道水、延命水、井戸水の水質成分を比較し、結果を考察した。データを見て、生徒達は硬水と軟水の違いを実感した。そして、飯高に日本最高の硬度を誇る硬水があることを知る機会となった。

c 名物・名産品を深める

飯高町の名産品を調べ、その知名度や生産過程に課題はあるのか、またどのようにすれば魅力を発信できるのか考えた。飯高地域振興局で飯高の名産品を紹介してもらい、道の駅飯高駅で飯南・飯高にどのような名産品があるのか探索した。また、飯高駅を訪れている観光客にインタビューも行った。松阪牛丼やうどんが人気商品で、とっとき味噌、でんがら、お茶、くさもちが有名であることが明らかになった。その他にも温泉やレストラン、景色のきれいさなど、商品に限らずこの地域には魅力があることを認識できた。

2日目は、前日に見つけた名産品の生産元を訪れた。こんにゃくに関心をもった班は上野屋という地元企業を訪問した。こんにゃくの製造過程の現場を見学し、この地域でこんにゃくの知名度が若年層で低いことや製造する人の後継者不足という課題を知ることができた。その課題の解決案として、生徒達からは現代の人たちに合わせた斬新なこんにゃく商品の開発や、季節に合わせた商品開発、他地域とのコラボ、広告に力を入れるなどの意見があげられた。また、とっとき味噌、でんがらに関心をもった班は、とっとき工房と呼ばれる製造元と味噌生産施設で作業過程の見学を行い、飯高地域の名産品に対する理解を深めた。ここでも生産者年齢の高齢化や、製品を生産する時間や人手が足りないことを知った。生産者の平均年齢は約76歳でもう少しで引退するため、今後は続けられなくなるかもしれないという実状を知ることができた。必死に後継者を探している現状が明らかになり、地域の過疎化が進んでいることを実感していた。生徒達は、若者が興味のありそうな商品の開発や、知ってもらうためにはどうしたらいいのか思いを馳せた。地域住民の間で伝統を続けていくこうという強い思いを実感できる場となった。

d 飯南・飯高のパワースポット

2日とも福信院で活動した。1日目は写経体験と大日如来が祀られている裏山の奥の院を散策した。全員で128段の長い階段を登り参拝した。2日目に護摩行、座禅を行った。話を聞く中で、跡継ぎがいないことや福信院の知名度が低いことが明らかになった。その課題の解決する提案として、福信院でのイベントを増やせないのか、宣伝や広告方法はないのかといった意見があげられた。その他にも、近隣住民が様々な地域へ出向いたときに福信院について伝えるといった意見もあった。

イ 地元の課題、困ったことを探し、解決策を考える

a 和紙和牛センターと牛農家について

深野和紙と松阪牛のことについて深く掘り下げ、この地域の伝統と文化に触ることを目的とした。和紙と洋紙の違いを理解し、和紙の原料を観察した。そして、深野で和紙が作られている理由についても学んだ。和紙がつくられる環境は牛にとって成長しやすい環境のようで、和紙と和牛についての関係性を理解しつつ、深野和紙は今後伝承されていくのか不安を感じていた。2日目は牛農家の栢木さん宅を訪ね、松阪牛について話を聞いていただき、松阪牛の定義を学習した。話の中で、立派な牛を育てることができる後継者がいないという課題を明らかにできた。

b 棚田祭りについて

棚田祭りとはどのような祭りで、その目的、課題があるのか明らかにすることを目的とした。棚田を歩き、棚田の地形や大きさなどの特徴について自分の目で見て理解した。棚田祭り実行委員会の栢木さんから棚田祭りの概要の説明を受け、棚田祭りで使用する竹行燈を見せてもらうことができた。竹行燈は雨や風で竹が腐ったり、崩れたりするので500～600本の竹を毎年交換していく過程があることも知った。さらに50人で2000本の竹行燈をつくるというかなりの労力を要することが分った。生徒達は、話を聞いて後継者がおらず、あと2回で終わりかもしれないという実情を知った。栢木さんの思いとして、石積み、石の芸術を大切にしていきたい、みんなで共同して棚田と棚田祭りを守っていきたいという強い思いを感じた。また、棚田では機械が使用できず後継者がより不足してしまう問題があることも分かった。

c 茶畠やソーラー発電について

茶葉田が減少傾向にあることと、ソーラーパネルの設置数が増加傾向にあることは関係しているのではないかという予想をたて、地域の土地の在り方を調査した。飯南の有間野と粥見地区の住宅を訪問し、インタビュー形式で調査した。

1日目は有間野で調査を行い、有間野を実際に歩いてみたところ、空き屋や空き地が予想通り多く、休校になっている小学校もあった。インタビューの結果として、ソーラー発電反対派が多いことが分かった。そこで、望まないソーラーパネルの設置があるのではないかという疑問が生まれた。また林業を営んでいる地元の方の話によると、農業と林業の減少が進んでいることも分かった。

2日目は粥見地区で調査を行い、生徒達は粥見地区を歩きながらソーラーパネルが多いことや、特産品の産業衰退が広がっていることを理解した。しかし粥見地区は、有間野地区ほど空き家は進んでいない印象を受けた。インタビューから分かったこととして、過疎化による人手不足、土地の活用方法に悩んでいる人が多いこと、核家族化問題、農業人口の減少、少子高齢化、有間野と同じくソーラー発電に反対が多いということがあった。若者が少ない原因是、やりたい仕事がないからであり、若者がこの粥見を離れ戻ってこないことが一番の問題であるということが判明した。やはり若者がいないと商売が成り立たなくなるからであ

る。ソーラー発電反対の意見としては、やはり景観が損なわれることと、土地が限られてきて処理が大変であるといった問題があげられた。また、空き家が多く、土地の管理ができず獣害や自然災害などの被害があることも明らかになった。

2日間を通して空き家の多さや廃棄された製作所もあったことから過疎化、労働場所の減少を実感していた。有間野は空き家が多く土地が余るので、ソーラー化が進んでいるのではないかと考察した。過疎化問題を最優先に解決すべきである、若い人が移住したくなるような工夫をする必要がある、働き口を増やして若者を呼び込むといった意見があった。その一方で、課題ばかりに目を向けたわけではなく、地域の魅力に注目することもできた。人付き合いが良いところ、自然が豊かなところがある、災害が起きにくいというメリットがあった。

ウ 地元企業への訪問と体験

a 長井米生活農場と飯南森林組合

この地域で行われる農業と林業のそれぞれの課題を考えた。1日目は長井米生活農場を訪問した。米を生産している長井さんから米作りから販売まで、米に関する仕事の話を聴いた。米作りに使用する機械も見させていただいた。そして、ライスセンターでは米を袋に入れる作業、機械を使って米を並べる作業体験をした。2日目は飯南森林組合を訪れた。近年の森林問題や環境問題の話を聞いていただき、この地域の課題以外を考える機会となった。この話を通じて森林組合が森林を守っていること、近年樹が減少していることを知った。そして、木を選別する機械を見て、木の重さを計測し値段を考えるといった活動を行った。この地域の農業関係者が抱える課題として米の量が減少していることと獣害被害があった。林業に関する課題として、地球温暖化が進行していること、自然災害が多いことが明らかになった。

b 長寿の森と有徳園

飯南と飯高にあるそれぞれの介護施設を訪問し、飯南と飯高で違いはあるのか、過疎化が進む地域での介護の課題を明らかにすることを目的とした。1日目は飯南町にある有徳園を訪問し、職員と利用者の方とコミュニケーションをはかった。2日目は飯高町の長寿の森を訪問した。同様に職員の方と利用者の方にインタビューを実施した。この地域では、高齢化が進んでいるなかで介護士の職員が少ないこと、職員の年齢も高齢化しつつあり老老介護が懸念されていることが分かった。さらに男性の職員が女性職員よりも少ないという問題もあった。自分たちがこのフィールドワークで経験したように、色々な人に介護職の魅力を知ってもらい、この地域で介護職を希望する人を増やす活動が必要であるという意見がでた。

④ 第2回フィールドワークの記録



(アa) 大谷嘉兵衛資料館



(アb) 命の硬水



(アc) とっとき工房



(アd) 福信院にて座禅



(イa) 牛農家で話を聞く様子



(イb) 棚田の風景



(イc) 土地利用について調査



(ウa) 米の袋詰め作業



(ウb) 長寿の森

⑤ 10月29日、11月5、6日 第2回フィールドワーク事後活動

フィールドワークの報告書を作成した。報告書を作成するにあたり、自分たちで見つけてきた課題を整理し、課題の解決策を考えた。そして、報告書をもとにして発表用のパワーポイントを作成した。

⑥ 12月17日 第2回フィールドワーク発表会

各教室に分かれて発表会を行った。自分たちが訪れたフィールドワーク先での内容も共有できるように、各教室でできる限りフィールドワーク先を重ならないように調整した。当日は、各フィールドワーク先でお世話になった地域の方々や、両地域振興局及び三重県教育委員会職員等の参観もあった。

参考に、「イ 地元の課題、困ったことを探し、解決策を考える」で紹介したテーマ「c 茶畠やソーラー発電について」でフィールドワークを行った生徒の作成スライドと報告書を次ページ以降に載せておく。

飯南町が抱える課題

目的・動機

- ・この地域が抱えている問題を詳しく知っていくため
- ・以前からお茶に興味があったから

一日目の調査内容

【有間野】

- ・空家・空き地が多い
- ・ソーラー発電反対派の意見が多い
- ・農業、林業の減少化

廃校になった
小学校



反対派の
意見が多い
ソーラー発電



林業を
営んでいる
地元の方



二日目の調査内容

【粥見地域】

- ・お茶畠が多い
- ・ソーラーパネルが多い
- ・特産品の生産業衰退化

広大なお茶畠



今回の調査で分かったこと

- ・過疎化による人出不足
- ・土地の活用法方に悩んでいる方が多い
- ・核家族化問題
- ・農業の減少化
- ・少子高齢化
- ・ソーラー発電を批判する理由

まとめ・解決策

- ・飯南町の抱えている問題の深刻さ、コミュニケーション能力の大切さを痛感した。
- ・過疎化問題を最優先に解決すべきだと思う。

お茶畠とソーラーパネル(1日目)

1. フィールドワークに行った場所

有間野) 空き地、空き家が多く過疎化による現象が多く見られ、特産品であるお茶の生産が特に活発な地域であると思います。



2. フィールドワーク場所で調査したこと

【見つけたもの】

お茶畠、ソーラーパネル、空き家

【出会った人】

- Aさん) 近所付き合いがいい、ソーラーパネル反対派。
- Bさん) 地元愛が強い、ソーラーパネル反対派より。
- Cさん) この地域でのんびりする事が大好き、ソーラーパネル反対派。
- Dさん) 土地の活用方法に悩んでいる、ソーラーパネル反対派。
- Eさん) 若い人達の力を特に求めている、ソーラーパネル反対派。
- Fさん) この地域の未来を心配している、ソーラーパネル反対派。
- Gさん) 少子高齢化の問題を特に重要視している、ソーラーパネル反対派。
- Hさん、Iさん) 空き家の問題を気にかけている、ソーラーパネル賛成派より。
- Jさん) 過疎化による寂しさを感じている、ソーラーパネル反対派。

【疑問・分らなかったこと】

何故、田舎だと働き口が少なってしまうのかが疑問に思いました。

3. 1日目の活動で分ったこと

人手不足による問題が多く、田畠や林業の減少化が目立ちます。また、年々深刻化している過疎化で空き家や廃校になってしまふ学校が増えてきています。そして、予想と違いソーラー発電は今のところ反対派の意見が多く、その理由として修理費の額が高く、15年後には廃棄しなくてはなりません。そして、外観が悪くなるというのも理由の一つです。少子高齢化は地元の方々が重要視している問題の一つで、子供たちの姿を見る機会が、昔に比べ減ってしまいとても寂しく思っているそうです。放置てしまっている田畠や山の活用方法に頭を悩ませている方が多かったように思います。

4. 2日目にむけての課題と疑問

地元の方々とコミュニケーションをもっと取りやすくするため、アドリブの文章も考えておくこと。

5. 1日日の振り返り

あまり積極的に地元の方々と会話を広げることが出来なかつたので、二日目は自分から話題を出していきたいと思います。

お茶畠とソーラーパネル(2日目)

1. 2日目に行った場所

粥見地域は、過疎化の傾向が目立ち、有間野とは違いソーラー発電を行っている家庭が比較的多い地域だと思います。



2. フィールドワーク場所で調査したこと

【見つけたもの】

お茶畠、ソーラーパネル、空き家

【出会った人】

Aさん) 特産品の生産が衰退してきていると感じている、ソーラーパネル賛成派。

Bさん) 田畠を個人で維持していくことは厳しい、ソーラーパネル反対派。

Cさん) 農業だけで生計を立てることは難しくなった、ソーラーパネル反対派。

Dさん) お茶の生産が数年後には成り立たないかもしれないという危機感を抱いている、ソーラーパネル反対派。

Eさん) ソーラー発電の後処理問題を解決してほしいと思っている、ソーラーパネル反対派。

Fさん) 老人会が充実しているのでとても助かっている、ソーラーパネル反対派。

【疑問・分らなかったこと】

何故、似たような境遇の地域間（有間野と飯高地）でソーラー発電をしている家庭の数が大きく違うのかが疑問に思いました。

3. 2日目の活動で分ったこと

空き家、空き地、田畠の放置といった過疎化による問題が多くみられ、特に影響を受けているものが、特産品であるお茶や椎茸の生産業衰退化です。以前までお茶の生産を行っていた辻根さんのお話によると、お茶の買い取り価格低下や、近年急須でお茶を飲む家庭の減少化によってやむを得ず引退することにしたそうです。農家の方々が減ってきてている理由には、こういった背景があるのだということを改めて知ることができました。

4. 2日間の活動を終えての今後の課題と疑問

田舎にある様々な課題の根幹にあるのは過疎化問題だと私は思うので、これを打破するためにまず、働き口を増やすことを最優先にすべきだと思います。例えば、飯南町の特産品であるお茶や椎茸の大手企業や、高齢化によって増加傾向にあるお年寄りを受け入れる福祉施設を多く建設することで働き口、働き手の増加を図ることができのではないかと思いました。

5. 2日目の振り返り

前回よりも地域の方々への取材をスムーズにすることができ、会話がとても楽しいものとなりました。コミュニケーションをしっかりとる事の大切さを痛感する良い機会になったと思いました。

(5) 課題解決学習（地域現状発表）【3学期】

3学期は他地域との比較を行い、他の地域の活動を知った上で飯南・飯高地域では何ができるのか、どのように魅力を発信していけばいいのかを考えた。次に、生徒に配付した冊子資料の一部と生徒の作成スライドを載せておく。

【3学期の課題解決学習(地域現状発表)とは?】

これまでの「産業社会と人間」では、2回のフィールドワーク(FW)を通じて地域のことを知ったり、掘り下げたり、課題を考えたりしてきました。3学期では、自分がor他のグループが行ったFW先の内容について取り組むことになります(テーマは12月に提出済)。

3学期の活動は、飯南飯高地域と他の地域とを(比較)して考えることがポイントになります。例えば、次の例A～Cのような流れで取り組んでいくと良いでしょう。

例A：FW先で見つけた課題、あるいは発表を聞いて気になった課題について考える

- ①なぜそれが課題なのか調べる
- ②他地域でも同じ課題があるのか、どのような(解決策)があるのか調べる
- ③どのように解決していくのがいいか、自分の意見をまとめ

例B：FW先で地域の魅力だと感じた、あるいは発表を聞いて興味を持ったものを考える

- ①その魅力・興味を持ったことについてより深く調べる
- ②他地域でも同じようなものがあるのか調べて(比較)してみる
- ③どのように発信すれば(魅力)が広まっていくのか考える

例C：FW先について自分なりに調べ直してみる

- ①発表で聞いた内容について、より深く調べる
- ②他地域でも同じような内容がないか比較して、その違いや共通点を調べる
- ③比較したことをまとめて、飯南飯高地域を考える

【なぜこのような活動をするの?】

今回の課題解決学習を通して、みなさんには次のような力を付けてほしいと願っています。

1. 興味・関心のある地域課題や魅力等について、より深く調べたり(比較)したりすることによって、文章との対話力を高め、(追究する力)を身につける。
2. 地域課題や魅力等について調べたり比較したりしたことをまとめ、自分なりの解決策や考えを(創造する力)を身につける。
3. 地域課題や魅力等をプレゼンテーションで伝えることを通して、(発信力)を身につける。

【今後の日程】※進行状況の目安（より早くても良い）

- | | | |
|------|------------------|----------------|
| 1／14 | 課題解決学習ガイダンス【第1回】 | 活動の内容や進め方を決めます |
| 1／21 | 課題解決学習つづき【第2回】 | 調べ学習を進めます |
| 1／28 | 課題解決学習つづき【第3回】 | 他地域と比較します |
| 2／4 | 課題解決学習つづき【第4回】 | まとめを考えます |
| 2／18 | 課題解決学習つづき【第5回】 | パワーポイントを作成します |
| 2／25 | 課題解決学習発表会 | 発表を行います |

(外部参観者あり)

学習日誌

1月14日（火）【第1回】

検印

1、あなたが3学期に調べていくテーマは何ですか？

2、そのテーマを選んだ理由（動機）は何ですか？

3、テーマに関して、課題だと思うことorもっと魅力を発信したいと思うことor調べていきたいと考えていることを書きましょう！（先生からのアドバイスを書いてもOK！）

4、活動した感想や今後の意気込みを書きましょう！（授業終了までに記入）

5、次週の計画

具体的に何について考えますか？調べますか？

担当教員への質問

<飯南飯高地域に関する調べ学習メモ>

課題や魅力は何だろう？

関係することをたくさん調べてみよう！

<他地域に関する調べ学習メモ>

飯南飯高地域と
同じようなことはあるかな？

どんな取組や解決策、
伝え方などをしているかな？

<飯高飯南地域と他地域とを比較してわかったこと、まとめ>

似ていることや
違うことは何だろう？

なぜ一緒にかな？
違うのかな

比較して、
改めて飯南飯高地域を
どう思うかな

地域の名物・名産品 発信方法

目的・動機

- ・前回のフィールドワークで知った課題の解決策に繋げたい！
- ・部活動に繋げられることがあるのでは？

飯南・飯高地域の課題

- ・名物品の知名度の低さ
- ・特産品の生産業衰退化

道の駅・飯高駅

創設30周年！



販売されている名物



だらやき



とっとき
焼ねぎ地味噌



でんがら

深縁茶房



販売されている商品



他県との比較



- ・三重県の特産品振興協会HPがない
- ・ふるさと納税品にお茶がほとんど登録されていない

飯南のお茶をもっと広めたい！

解決策

- ・三重県の特産品振興協会のHPを作る
- ・ふるさと納税にお茶をもっと載せてもらう

感想・まとめ

- ・飯南・飯高地域の特産品の現状を改めて知ることができた
- ・これから部活動に繋げていきたい
- ・二年生でも地域のことを取り上げて調査をしていきたい

(6) 今後の課題

今年度の産業社会と人間では、地域が抱えている課題の発見や課題の解決のために2回のフィールドワークと地域を比較する活動を行った。そして、地域を学び場とした活動を通して地域への愛着を持ち、地域に貢献できる地域に根ざした人材の育成を目的として1年間活動してきた。

第1回フィールドワークについては、実施した時期が5月上旬であったため、地域のことを十分に学習する事前学習の時間が確保できなかった。また、今回はあえて具体的な目標と場所を指示しなかったこともあり、どのようにフィールドワークを進めればいいか困惑する班も見られた。次年度は第1回目のフィールドワークから具体的な目的や課題を生徒に与えることが必要であると考えられる。そして、飯南・飯高の両方でフィールドワークを行わず飯南のみで行い、まずは飯南を深く掘り下げる手法のほうが効果的かもしれない。

第2回フィールドワークでは、ほとんどの班が地域の方とコミュニケーションをとることができた。しかし、対話に必要なコミュニケーションスキルが欠けている面もあり、事前に対話力を育んでおく必要がある。また、午後の活動報告書作成の時間では、班を解体し個人での作成であったので、班全体でフィールドワークの内容を共有する時間がそれなかった。次年度は、報告書作成の前に情報の共有を行うことも必要である。

今年度は初めて「産業社会と人間」において、地域の課題について考える活動を行ったが、活動を通してこの地域に対してのマイナスイメージが強く残った面もある。今後は、「地域の良さ」と「魅力」を発信しようとするプラスイメージを持って活動できるような取り組みにしていきたい。



課題解決学習発表会の様子

2 2年次「キャリアデザイン」の取組

(1) 目的

「産業社会と人間」と「いいなんゼミ」をつなぐ、地域課題解決型キャリア教育の中間点と位置づけている。企業見学会や外部講師による講演会での出会い、そしてインターンシップで仕事に触れて、リアルに地域社会で生きることを考える力を付けていく。また、修学旅行で得た知識を比較したり、プレいいなんゼミで考えを深め整理したりして、自己のあり方や地域との関わりを認識し、自分づくりを深めていく。

- ①将来への関心を高め、積極的に調べたり体験したりし、働くことへの意識を高め、意欲的に学ぶ態度を身につける。他者との対話を通じて学びを深め、コミュニケーションを意欲的にとる力を身につけT P Oを判断し、適切な振る舞いを行う。
- ②体験したことや聞いたことを通じて、地域生活や働くことに対して考える力を身につけ、進路に対し追究し、聞いたり質問したりして思考を深め、報告書作成を通じて、自らを表現する力を身につける。
- ③体験した内容を整理し、内容を正確に伝えるためのプレゼンテーション技術を身につけ、調査・研究を通じて、自らの考えを適切に表現する。
- ④進路に対する知識を増やし、最適な進路実現に向けて情報を比較することができ、自らの長所や短所を知り、社会の構成員として自らの能力を発揮できる場を探せるよう、社会の仕組みを理解する。

(2) 実施内容

月	取り組み	内 容
4月	オリエンテーション 仲間作りワークショップ 基礎学力診断テストの見方 講話	2年次の方針ガイダンス キャリアデザインガイダンス 仲間作りワークショップの実施 前回の基礎学力診断テストの見方の説明と 結果を基にふりかえりシートの記入 校長講話。進路主任講話。生徒指導 主任講話
6月	企業見学会	2班に分かれ、自分の関心のある県内の 企業を2社見学する
7月	進路フェスタ 基礎学力診断テスト	進路フェスタに参加し興味のあるブース をまわる 基礎学力診断テストの実施とS H R の 学びでOne-Weekに取り組む
8月	セルフプロデュース型 インターンシップ	3日間を自らがプロデュースし、体験 する。対象(職場体験、地域ボランティア、 オープンキャンパス等)
9月	インターンシップのまとめ 基礎学力診断テストふりかえり 修学旅行事前学習	各自でパワーポイントを使い、まとめ作成 結果をもとにふりかえりシートの記入、 次回目標の設定 沖縄での研修先を各班で検討

月	取り組み	内 容
10月	沖縄への修学旅行	平和祈念公園での平和と歴史の学習
11月	進路ガイダンス 文化祭での発表	大学、専門学校より講師をお招きし、分野別に模擬授業を行い進路決定に役立てる 修学旅行で体験したことや学んだことを展示発表
12月	基礎学力診断テスト プレいいなんゼミテーマ設定 プレいいなんゼミの実施	基礎学力診断テストの実施とS H R の学びでOne-Weekに取り組む プレいいなんゼミのテーマを設定し研究計画を立てる 課題について研究し、3年次の「いいなんゼミ」へと繋げる
1月	基礎学力診断テストふりかえり プレいいなんゼミ発表会	結果をもとにふりかえりシートの記入、 次回目標の設定 パワーポイントを用いプレゼンテーションを行う
2月	進路ガイダンス 問い合わせワークショップ	専門学校より講師をお招きし、学校比較ガイダンス、就職講話 産業能率大学より講師をお招きし、ワークショップの実施、3年次いいなんゼミのテーマ決定に役立てる（講師：皆川雅樹准教授）
3月	「いいなんゼミ」テーマ決定	3年次の「いいなんゼミ」のテーマを決定する



4月 仲間作りワークショップ



8月 インターンシップ



11月 修学旅行

(3) 検証

- ①進路ガイダンスでの学習内容については、事前アンケートを実施し、その結果をもとに、生徒の興味にあわせ第1希望を優先して講座設定を行った。そのことにより、日々の学習、特に系列での学習においても意欲的に進める姿勢がみられた。
- ②6月中旬に全員で企業見学を行うことで、人間関係形成能力、情報活用能力、将来設計能力、意思決定能力の育成を主眼におき、県内の企業を見学し、進路選択に役立てることができた。
- ③夏季休業中、興味・関心を持っていることに対し、自らの力で職場体験などのインターンシップを計画・立案し、実施することにより、生徒の学ぶ意欲を大切にし、一人ひとりの力を伸ばす支援につながった。

- ④修学旅行に向け、沖縄の調べ学習を実施した。しかし、予定されていた平和学習の時間が文化祭準備に変更になり、平和学習を実施することができなかった。2学年は学校行事が多く、年間の授業計画の精査が必要である。
- ⑤進路別ガイダンスではいろいろな学校の模擬授業を通して今後の進路を考える事ができた。おおむね第一希望校での授業体験を実現できた。
- ⑥夏季休業中に実施したインターンシップや3学期の「プレいいなんゼミ」において、パワーポイント作成や発表を積極的に行うことで、プレゼンテーション能力を向上することができた。来年度の総合的な学習の時間「いいなんゼミ」に向けた準備学習に取り組む事ができた。
- ⑦SHRの学びでは、基礎学力の定着として、6月に漢字検定を全員受検した。基礎学力診断テストに向け、One-Weekの学習を計画的に取り入れた。生徒が主体的に学ぶ仕掛け作りとして基礎学力診断テストのふりかえりを行い、基礎学力向上の到達点を一人ひとりに意識させた。また、3年次の就職・進学試験を想定し、国語表現力問題に取り組むなど、進路を意識し実践的な内容を取り入れた。

【協力団体一覧】

あいちビジネス専門学校、あいち造形デザイン専門学校、トライデントデザイン専門学校、ミス・パリエステティック専門学校名古屋校、ユマニテク調理製菓専門学校、愛知工業大学、愛知美容専門学校、旭美容専門学校、伊勢志摩リハビリテーション専門学校、伊勢理容美容専門学校、伊勢理容美容専門学校、協栄学園、皇學館大学、三重県立公衆衛生学院、三重県立津高等技術学校、三重大学、三重調理専門学校、四日市大学、専門学校トライデント、専門学校ユマニテク医療福祉大学校、代々木アニメーション学院名古屋校、大原簿記医療観光専門学校津校、大阪学院大学、東海工業専門学校金山校、日産愛知自動車大学校、高田短期大学、名古屋スクールオブミュージック&ダンス専門学校、名古屋デザイナー学院、名古屋ビジュアルアーツ、ホテル・ブライダル専門学校、名古屋外語大学、名古屋経営短期大学、名古屋芸術大学、名古屋工学院専門学校、名古屋情報メディア専門学校、鈴鹿オフィスワーク医療福祉専門学校、鈴鹿オフィスワーク医療福祉専門学校、鈴鹿医療科学大学、鈴鹿大学、鈴鹿短期大学、産業能率大学、アピタ松阪三雲店、いいなんキッズいきいきクラブ、飯南森林組合、魚国總本社三重支社、景井美容室、(株) 三ツ知製作所、ぎゅーとらラブリーダー大黒田店、熊野の郷、コメリ、コメリ書房、サンドラッグ、さんぽう、児童クラブいいねっこ、セブンイレブン下村町、総合学園ヒューマンアカデミー、ととや、日本赤十字協会、びっくりドンキー、ファミリーマート、プライスカット、前島食堂、マクドナルド、マックスバリュ、松阪社会福祉協議会、松阪市立飯南たんぽぽ保育園、松阪市立若草保育園、三重県社会福祉協議会、ミセスマート飯南粥見店、山室山保育園、有限会社深緑茶房、吉野家久保町店、伊勢志摩リハビリ、松阪ショッピングセンターマーム、松阪駅、飯南コミュニティセンター、珈琲所コメダ珈琲店、特定非営利活動法人 世界SHIEN こども学校のびすく、一般社団法人 未来の大人応援プロジェクト

3 3年次「いいなんゼミ」の取組

(1) 目的

自ら課題をみつけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を身につける。学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探究活動に主体的、創造的に取り組む態度を育て、自己の在り方、生き方を考える。

①問題解決能力

主体的に「課題」を設定して計画を立て、問題解決していくことによって、計画性、実践力及び問題解決能力を養う

②自主性、創造性

自主的、継続的に学習する姿勢と探究的、創造的な態度と能力を身につける

③学習の深化

各教科・科目で学習した知識・技術を関連させる力を養うとともに学習の深化を図る

④主体的に生きていく姿勢

課題解決により、達成感、充実感を味わい、自分自身への自信、自身の進路希望へ意欲を高める

(2) 今年度実施内容

月	取り組み	備 考
4月	「いいなんゼミ」ガイダンス 担当教員とテーマ確認（生徒用 予定表配布） 年間計画書作成	第1回担当者会議 アンケートの取り方について 図書の利用、著作権について
6月	企業見学会	第2回担当者会議 (進捗状況報告、中間発表会について)
7月	ゼミ内中間発表会 1学期研究活動報告書作成 夏休み活動計画書作成	1学期評価（文章評価）
9月	夏休み研究活動報告書作成 年間研究活動計画書の確認・修正	
11月	いいなんゼミ報告書作成開始 発表会に向けてPP作成、発表練習	第3回担当者会議 (報告書・発表会について)
12月	いいなんゼミ報告書提出 最終ゼミ内発表会 学年発表会	第4回担当者会議（学年発表会選出） 第5回担当者会議（本番発表者選出） 2学期評価（文章評価）
1月	発表代表者PP作成、発表練習 展示・実演・ポスターセッション 準備 発表会当日にむけて仕事分担	
2月	いいなんゼミ発表会 出前ゼミ（飯南中、飯高中）	3学期評価（文章評価）

(3) 今年度活動内容（テーマ一覧）

①多賀ゼミ【地域課題探究ゼミ】

- ・飯高・飯南のこれから～空き家と向き合う～
- ・地域活性化～フォトコンテスト～
- ・クレソンから地域について考える
- ・地域活性化×スポーツ
- ・小説で松阪の歴史を学ぼう！
- ・飯南地域周辺のまつり
- ・お仕事図鑑 IN粥見
- ・フォトコンテストまでの道のり！
- ・飯南高校を模型で再現
- ・味娘を使った石けん

②門脇ゼミ

- ・子どもが喜ぶおもちゃづくり
- ・フェルト作品で日本の四季
- ・子どもが安全で楽しく遊べるおもちゃを作る
- ・初心者がギターを弾いたらどこまで上手くなるか
- ・鉛筆デッサン

③川上ゼミ

- ・アニメを作る！
- ・Insect Observation + α
- ・ピアノをマスターする
- ・夢について
- ・身近にある毒・薬品
- ・ピアノにチャレンジ
- ・手品をマスターする
- ・おしゃれ障害

④宮崎ゼミ

- ・モノマネを極める
- ・イラスト
- ・花粉症について
- ・三重県内の様々な方言
- ・イラストはどれくらい上達する？
- ・綺麗に写真を撮る方法
- ・沖縄の方言！！
- ・ペン回し

⑤坂元ゼミ

- ・錯視の不思議
- ・ログハウスの模型を作ってみた！
- ・櫛田川の世界
- ・手作りプロペラ飛行機は飛ぶのか？
- ・木材でゲーム・アニメの武器を作る
- ・櫛田川を知ろう！

⑥中村ゼミ

- ・体力テスト8種目の記録を伸ばす
- ・ハンドスプリングとバク転を成功させる
- ・日商簿記検定に挑戦
- ・テーマパークダンサーになるため～苦手克服～
- ・右ストレートの威力増強
- ・左手で字の上達
- ・ダンス1年間極めてみた
- ・アメフト

⑦正高ゼミ

- ・どこまで筋肉をつけられるか
- ・速く走るには
- ・フラットサーブ～スピードの向上～
- ・割るについて
- ・二重跳び30回チャレンジ
- ・フェデラーを目指せ、キックサーブ
- ・e-sportsの可能性

⑧東ゼミ

- ・粘菌を探す
- ・味と覚と嗅と
- ・結婚式の知っていそうで知らないこと
- ・うま味の中で1番味噌汁に合うものは…
- ・野菜の育て方を変えてみた
- ・飯高と松阪の車の色について
- ・奴が来る
- ・髪について
- ・9つのHEAR ARRANGE

⑨栗谷ゼミ

- ・涙と感情の関係性～なぜ人は涙を流すのか～
- ・色覚・カラーユニバーサルデザイン
- ・質のいい睡眠をとるために
- ・猫背を治す方法
- ・白血病
- ・バリアフリーの家の模型
- ・介護福祉の小説
- ・癌について
- ・脳血管疾患と生活習慣病について

(4) 地域課題探究ゼミについて

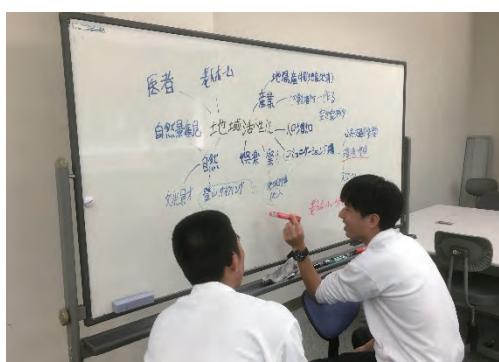
①生徒の課題意識と構成

地域に関する内容をテーマにした10名の生徒が、「地域課題探究ゼミ」として一つのゼミに集められた。その10名の内訳は、2年次の段階から「飯南・飯高地域にある仕事を知ってもらいたいので図鑑を作りたい」、「私の住んでいる飯高地域で増加している空き家を考えていきたい」という課題意識を明確に持った生徒もいれば、漠然と「地域活性化をしたい」、「地元なので考えてみたい」という生徒も含まれていた。「地域課題探究ゼミ」とは言いながら、そこまで深く探究したいという生徒たちが当初から集結してきたわけではない。このため、1年間で何を目的に取り組んでいきたいのか、その活動によってどういう効果が期待できるのか等について生徒と意見共有する必要があると感じられた。

②ゼミ内での意見共有と外部人材の紹介

初めの授業では決意表明を書かせた後、2時間分を使ってゼミ内の意見共有の時間とした。それぞれの取り組んでいきたい内容を対話していく中で、単に地域を考えたいという生徒が、質問し合いながら具体性を持っていくことが見て取れた。また、「この地域ならクレソンやブルーベリーもあった気がする」、「松阪の歴史上の人物なら松浦武四郎も入れるのかな」と知っている事柄を伝えながら意見が繋がっていき、個人の探究活動から全体への広がりも感じられた。この後も、ゼミ内で学期に1～2回の意見共有する機会を意図的に設け、これまで取り組んできた活動のアウトプットをして情報整理をすることとした。また写真のように、ホワイトボードで生徒自らが意見を出し合うことが授業時間中によく見られ、似たようなテーマの生徒が集まると自走していく姿が確認された。

生徒の活動が進んでいくと、さらに深まりを持たせるために外部人材の紹介を行った。例えば、地域のクレソン生産者や松阪市役所の移住促進担当者、松阪市長など、本気で地域で活動をしている大人たちとの対話を促進した。また、名古屋大学高野雅夫教授には2回にわたり来校いただき直接指導を受けた。



③具体的な生徒活動の成果

ア 内容の変遷

次に年度当初のテーマ(矢印左)と最終的なテーマ(矢印右)を列挙する。

- a 飯南・飯高のお仕事図鑑 → お仕事図鑑 IN 粥見
- b 地域について → フォトコンテストまでの道のり！
- c 地域の観光スポットを調べてマップを作る → 地域活性化～フォトコンテスト～
- d 飯高・飯南のこれから～空き家と向き合う～ → 左に同じ
- e 地域活性化とスポーツについて → 地域活性化 × スポーツ
- f 飯南の地域について → 飯南地域周辺のまつり
- g 地域の歴史について小説を書く → 小説で松阪の歴史を学ぼう！
- h 地域活性化について → クレソンから地域について考える
- i 飯南高校について → 飯南高校を模型で再現
- j 飯南の特産物や観光 → 味娘を使った石けん

当然ながら最終的に内容は焦点化していくが、当初からテーマを変えずに深化していく生徒や、活動内容が似通っていたため協働活動へと進んでいった生徒たちもみられた。次項では、これらの活動と生徒の様子の一部を具体的に紹介したい。

イ 活動の具体的な内容

a 「お仕事図鑑 IN 粥見」

生徒aは、2年次12月に参加した「高校生地域創造サミット」で広島県立大崎海星高等学校の実践を聴いて感銘を受けた。その実践は、島内での仕事を紹介した冊子「島の仕事図鑑」というもので、生徒がI・Uターンをして働く方にインタビューする形式でまとめたものである。生徒aは飯南・飯高地域でも作れないかと考え、すぐさま行動に移した。3か月後の2月に行われた学校設定科目「社会科学入門」の研究発表会の際に校内全生徒へアンケートを取り、「若者が地方から減少する理由の一つとして、仕事に関する情報を得る手段が少なく将来が不安になり、都会へいければ大丈夫という考えに陥り、飯南・飯高地域にある仕事にまで目が向けられていないのではないか」という結論に至った。そこで地域の仕事を紹介するために、この活動へと進んでいったのである。

最終的に生徒aは4企業へ自ら連絡し、進路指導室の資料を中心に各企業を調べ、進路指導主事や職場定着サポーターにアドバイスを受ける事前準備をしてインタビューへ向かった。質問内容は共通するものを設定し、各企業A4用紙3枚程度で比較できるようまとめた。また、高野雅夫教授に適宜指導を受け、後輩が読んでも伝わるように語句の言い換えや表現の工夫等も行った。

生徒aの活動の目的は、後輩に地域の仕事や魅力を伝え、飯南地域に就職する人数が増加することを期待するものであった。この活動の成果が出るのはまだ先ではあるが、いいなんゼミ発表会でのポスターセッションにおいて、知らない企業を知ったあるいは興味を持ったという生徒が何名かいたようで、生徒aは活動の意味が少なからずあったと実感していた。また、その活動を通じて自らの進路選択を見つめ直す契機ともなり、「日常に目を向けることで、自分がやりたいことを見つけられると気づけた」と話していた。

b・c 「フォトコンテストまでの道のり！」

当初生徒bは「地元のことを調べたい」、生徒cは「地元の魅力マップを作りたい」と表明し、地域の祭りやお茶などを調べていた。ちょうどその頃、1学年が「産業社会と人間」でのフィールドワークを魅力マップへまとめる活動をしており、そこに貼られた写真の風景を見て、写真をマップにすることは面白いのではないかと二人とも考えるようになった。たまたま時を同じくして、担当者が木本高校生の取り組んだ「Discovery熊野フォトコンテスト」の実践を聴き、これを投げかけたところ行動してみたいと共同研究になった。

地域の人口減少に关心のあった二人は、フォトコンテストの開催によって関係人口や交流人口が増加すればと目的意識を持ち活動を進めた。当初はそれがどこまで分担するのか牽制し合って葛藤もうまれたが、リバーサイド茶倉での会議を進めるにつれて具体性が見え、自走できるようになっていった。計画の遅れから開催期間が短くなり、応募写真は10枚程度となったが、来訪者アンケートからは「名張市から来ました。写真是とても素敵で地域愛にあふれており、その場所へ足を運びたくなるものでした」「自然の素朴さと美しさがなつかしく、少年時代を思い出しとても良かったです」等の意見が出たため、僅かでも交流人口増加に繋がり、地域への想いを再確認できる場を提供できたことは間違いない。また、このイベントの企画に当たっては地域の多大なる協力があり、地域の協働なくして達成できるものではなかった。



d 「飯高・飯南のこれから～空き家と向き合う～」

生徒dの活動は、2年次に参加した本校主催「第1回答志島サスティナブルキャンプ」に始まる。出身の飯高地域の過疎化に关心を持っていた生徒dは、このキャンプで答志島の魅力や課題を知る中で、「飯高地域を改めて見つめ直す必要がある」と考え、他地域との比較を通じて過疎化や空き家を考えるようになった。このゼミでは当初からテーマを変えず、地域の方にアンケートを取りながら地域の魅力や空き家について調べ続けた。ただし、実際に空き家を見に行くことや移住者と話をするようなところにまでは及ばなかった。

生徒dの行動が自走し始めたのは、7月末に行われた「第2回全国小規模校サミット」に参加してからであった。このサミットで小国高校生の熱意と行動力に感動し、自分も行動できることがあるはずと活動にスイッチが入ることになった。これ以後夏休み期間や休日を利用して、松阪市役所の移住促進担当者や地域振興局の方と、移住者との対話の場や空き家の現場に出向く活動を通して探究活動を深めていった。

その活動は、地域のかわら版へ学校の許可なく空き家の片付けを募る行動にまで進んでいったが、まさに探究活動が自分ごととなって突き進んだ結果である（地域振興局から連絡があり、担当教員が後日確認した）。

生徒dは活動で得られた知見を通して、空き家バンクへの登録が空き家の減少に繋がり、さらには飯高町への移住者の増加となると考えた。そこで空き家の片付けができるために空き家バンクの登録が進まないと仮説を立て、「空き家片付けプロジェクト」を企画し、同志を募って実際に行動へ移すことになった。この活動で、一人では片付け切れずにバンク登録を断念していた話を直接伺い、パワーのある高校生が地域のために行うことのできる意味ある活動だと結論づけた。空き家バンク登録そのものは地域活性化として小さな結果かもしれないが、全国の高校から好事例として注目されており、高校生が確かな一歩を踏み出せたものになったと感じる。この生徒dは、飯高地域の活性化にむけてより大きな課題について実践を通して学ぶために、大正大学地域創生学部の地域人材育成入試を受験し合格した。この活動は、いいなんゼミでの地域課題探究を深化させていくことで、大学進学へと繋げることを示す事例となった。



④今後の課題

③イで示したように、それぞれの地域課題探究は地域へ影響を与えるものとなった。生徒の力が一層伸びたことは言うまでもなく、自らの進路を見つめるものにもなり、地域との協働で生徒－地域がお互いに好循環となったことは明らかである。

今後の課題は、これらの活動を引き継ぐ生徒がいるのかという点と、当初の段階で生徒に「貫ける問い」を持たせられるかという点である。個人活動という性質から継続は難しいが、この地域でしか学べない部分を学校としてどう繋げていくのか考えることは、今後の学校としての価値や厚みを持たせるものになると思われる。

（5）今年度の検証

①今年度のいいなんゼミについて

今年度のいいなんゼミにおいても、生徒は多種多様なテーマ・課題に対して研究を行った。将来の進路に直結するものをはじめ、自分の興味・関心について深めたり、飯南飯高地域の課題について取り組んだりした。4月当初はテーマ・課題を設定したもののがわからず躊躇することもあったが、担当教員や外部の専門家のアドバイス等を受けて少しずつ前に進むことができた。2回の発表会を通じて調査・研究の内容も深まり、充実したものとなった。最終的に本番の「いいなんゼミ発表会」に選出された8組は、パワーポイントの手直しや舞台上での発表練習に精力的に取り組み、例年以上に完成度

の高い発表会とすることことができた。

②報告書のバージョンアップについて

個人の研究内容をまとめた「いいなんゼミ報告書」について、今年度は書式を改めた。従来はA4縦の用紙にワードを使って作成していたが、読み手の見やすさや読みやすさ、わかりやすさを意識して、A4横の用紙にエクセルを使って作成することとした。初の取組のため、文字入力や写真の添付等で上手くいかない点が様々出てきたものの、最終的には満足のいく「いいなんゼミ報告書」に仕上がった。

世界遺産ってなんだろう？

1. 研究目的・目的

ニコス「『これが世界遺産に至る』というのをみて、そもそも世界遺産が什么样的なのがを理解たくなりました。自分自身があまり興味をもつてこなかったので実際に遺産へ行ってみると、その世界の美しさ・豊富さを年々新しいことを知ることがあります。また、世界遺産を知らない人に 대해、少しでもわかりやすく伝えることが必要だと思いました。

2. 研究者

まず、世界遺産で扱っている世界遺産の歴史書を活用しました。歴史書は、書あった出来事に隣接する世界遺産が載っていたのでやりやすかったです。しかし、歴史書だけではその進歩的性質にこだわってはいけないと感じました。そこで、世界遺産を知らない人に 대해、少しでもわかりやすく伝えるためにインターネットで調べました。

このようにインターネットなどで調べてみると、実際に遺産の様子を見た方がよほど興味をもつてもらえるのではないかと思いつきました。行く場所は、世界遺産と違うところもあり少し遠めのところへ行ってみようと思いました。世界遺産が遺産ある世界へ行き、世界をよりよく見たいと思いました。

3. 研究書類

インターネットで調べていて中で興味なことを知ることができました。まずは世界遺産とは、人深の歴史をもつ遺産である文化遺産と地質的遺産をもつ自然遺産である世界遺産。その両方を世界遺産と呼んでいます。一方で、世界遺産とは世界遺産のうちが世界遺産。世界遺産ではないのがはないかと思いつきましたが、調べていくと重要な要素を活用して世界遺産をまとめるところが世界遺産のルールであるように、世界遺産としているところを知りました。

4. 研究のまとめ

今回の大発表では時間的な制約から世界遺産の一端しか覗べることができませんでした。しかし、自分の感想を聞くことができました。

旅行しながら、少し違う世界遺産についての知識を詰めていき、他の人に伝えることができればいいと思いました。

多賀ゼミ 3年3組3席 平野 彩音
飯高・飯南のこれから～空き家と向き合う～

1.はじめに

私が地元活性化をしたいと考えたのは、地元飯高町が将来無くなってしまう寂しい。自分で育ててくれた飯高町に将来地元活性化はどうして貢献したかからです。

そんな飯高町には、昔者の地元離れ、空き家問題、廃墟所がないなどの課題がある。私はこれらの課題を解決するために行動しました。つまり、「空き家」について、いいなんゼミで取り上げることになりました。

2.研究テーマ

私は始め、「空き家を活用して活性化につなげるべくをしよう」と考えて、空き家を利用で活性化に成功している話を調べた。成功した話を調べてみると、どのまちごとに必要な空き家を活用でやっていているのかがわかった。

次に、この町は本やインターネットで調べてみると、実際に地図で調べてみたところ、市役所の方で空き家を登録してある。市役所で空き家バンクを作ると、空き家を活用して活性化のイベントをまとめていくと、空き家を活用して活性化のイベントをする時に、まず空き家を空き家バンクに登録してもらうことが重要だと分かった。

3.研究内容

まず市役所の内田さんや飯高町の佐木さんから話を聞き、【移住・就労者】のあるまち、空き家・ハシナカ・廃墟所がある件がわからないから、もっと詳細な話を聞くべきだと察して、空き家バンクで詳しく話を聞いた。そのため、移住希望者の貸しバーレーノを借りやすかや、空き家を有効活用させれる場所を広げるために、空き家バンク登録してもらおうと行動することに決めた。

私は、そもそもなぜ空き家バンクに登録しないのかを考えた時、仮想のあらわしで地元活性化を手承することができるかについて、市役所で空き家を登録してもらうことで、空き家バンクに登録することができるかを想像しながら、このことが私が思っているのと同じなら、仮想地元活性化の手がかりを考えたから田舎だからこそ地図や地図大切にする文化があるため、この問題で活動するのは新しいと判断した。

ここで、いいねなどの活動が行き詰ってしまったため、飯高町に残された飯山山に相談してみた。すると、飯山山に行く人が少ないから空き家バンクに登録してもらうことで、人を呼び込むことができる。仮想地元活性化の手がかりとして意見を聞いたいたため、飯山山に道具や小物の片付けをしてバーレーノプロジェクトを行なうことを決意した。

このプロジェクトはボランティアで行なうため、市役所の方に問い合わせてもらいました。市役所の方は、このプロジェクトはボランティアで行なうため、市役所の方に問い合わせてもらいました。私はこの方の声を聽くがために「頑張ろう」という気持ちになり、活動を進めることが出来ました。

私は将来地元活性化といふ形で飯高町に貢献したい。今後もリアルな地域の方の声を聴きながら、大学進学後も活動を進めていきたい。

4.研究を終えて

また研究は締め切りましたが、私は今までの活動で、地域に「おしゃれ」と「おしゃれ」の生の声を聞くことの難しさを痛感しました。そのため、地域活性化のための活動を始めたかったが、インターネットで調べることのできないものを得ることが出来たらいい。その代わりに、地域の方の想いや「体験」。私はこの方の声を聞くがために「頑張ろう」という気持ちになり、活動を進めることが出来ました。

2019年度報告書

③いいなんゼミ発表会本番について

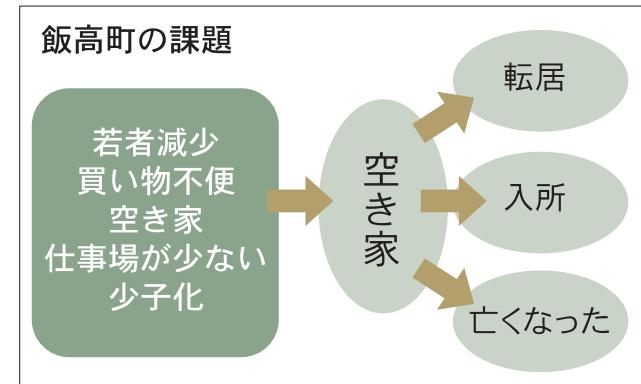
今年度も例年以上に多くの方に来場いただいた。発表はフォトコンテストの開催や空き家バンク登録に向けて片付けに取り組んだもの、味覚の実験、1からのアニメーション制作、スマート使用と睡眠の関係性など多岐にわたった。当日の休憩中には、子ども向けのおもちゃや地域や福祉を題材にした小説など制作した展示物の紹介や、ピアノやギターなど練習した成果の実演もあった。このように、生徒自身が興味・関心を持って1年間取り組んだ調査研究の成果を見ることができた。また、生徒自身が準備や後片付けをはじめ、受付、司会、音響照明、中学生対応など、ほぼ全ての運営を主体的に取り組み、発表会の成功に大きく貢献した。

41

※いいなんゼミ発表会当日の様子



※発表会で使用したパワーポイントの抜粋



空き家が増えることのデメリット

所有地の草などの処理

景観を損ねる

危ない

壊そうにも壊せない

飯高町の空き家は340件

↓
そのうち空き家バンクの登録件数は43件

↓
空き家バンク登録件数から移住者契約は
2019年で6件、2018年で8件

↓ ということは…

**空き家バンクに登録してもらうことは
空き家を減らすことに効果がある**

空き家バンクとは



飯南・飯高の

空き家の有効活用を通じ、

安住と地域の活性化を

図ることが目的

問：なぜ空き家を空き家バンクに登録して
もらえないのか？

〈仮説〉

- ①そもそも知らない
- ②仏壇があるから
- ③面倒くさい

〈聴き取り〉

飯高地域振興局の
松本さんにお話を伺った



仏壇があるから
家を手放すことが出来ない
・・・という方が多い

どのようにしたら仏壇問題が 解決できるのか

所有者の方に
直接話をする？

田舎だからこそ仏壇や先祖を大切にする文化

→仏壇問題を解決するために
高校生として活動するのは難しい

高校生としてどんな活動が出来るのかを
飯南町に移住された横山さんに相談

大家さんの
家具の片付けが
大変そうだった

家具が片付けられず、
登録しない人がいる



高校生が家の家具や小物の片付け

ボランティアで活動を行うため市役所の仕事では出来ない
お金を出してまで片づけをやろうと思わない方がいる

早速、片付けする空き家の募集を飯南町のかわら版、飯高町のとっときだより掲載！

↓ 1件の依頼がきた!!!

空き家の状態

- ・飯高町の森の家
- ・築後40年
- ・空き家になって6年ぐらい
- ・月に1回所有者の方が管理に来ている



片付けを終えて



ゴミの分別が難しい！

本やダンボールの整理が大変！ →

まとめたゴミが大量に！

高校生が
すべき活動

家主さんとの意見交換

家主さん



「仏壇は早くに新居に移動させた」

「何年もかかって他の家具を片付けた」

「空き家バンクに登録する決心がついた」

所有者 —

お金かけたくない…
片付けできる力がない…
でもうりたいし、
手放したい！



高校生 —

地域に出て学びたい！
元気でパワーがある！
空き家を何とかしたい!!!



空き家バンクに = 地域活性化 登録してもらう

だが !!!

大きくは地域活性化には
繋がらない

この活動をすることによって
空き家バンクに登録してもらえる

→ 登録は小さなことかもしれないが、
高校生が確かな一步を踏み出せた！

今まで地域活性化について学んできた

地域を本当に活性化させながら課題の根本的な部分を解決しなければならない



これからは飯高町の「仕事場がない」という根本的な大きな課題を解決していくために
大学で実践を通して学んでいきたい